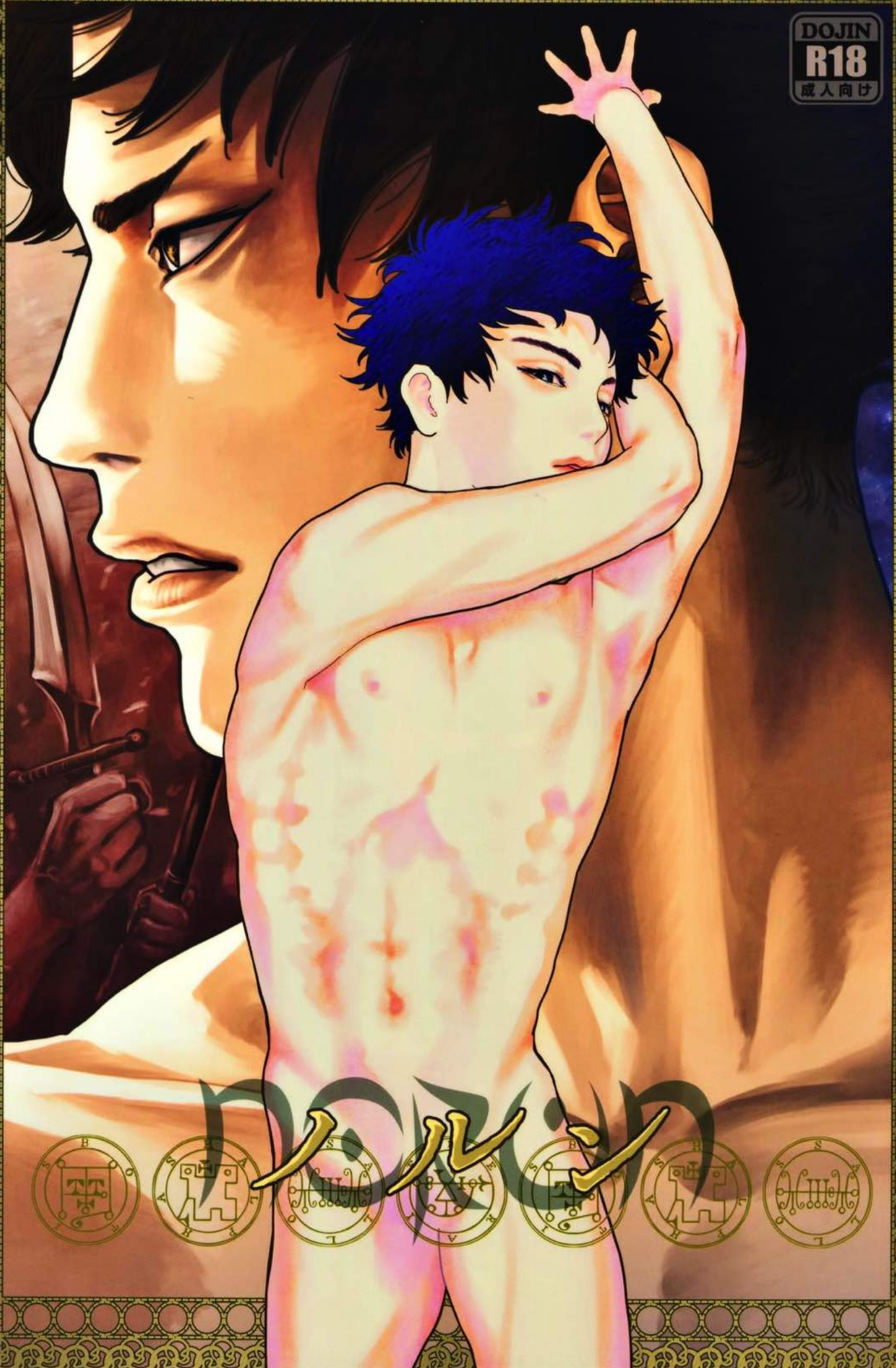


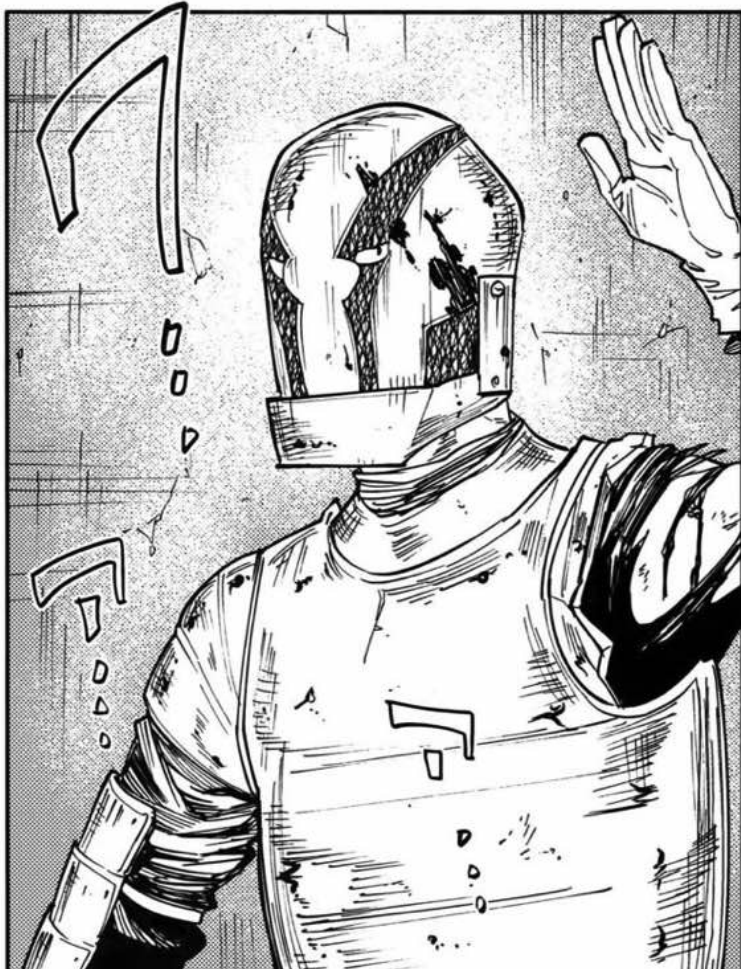
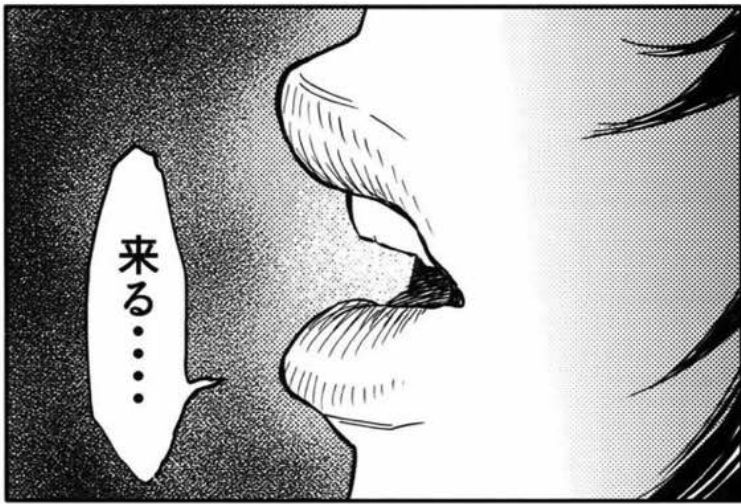
DOJIN
R18
成人向け



ノルン







ドカ...ドカ...

ドカ...ドカ...



自分が案内
できます

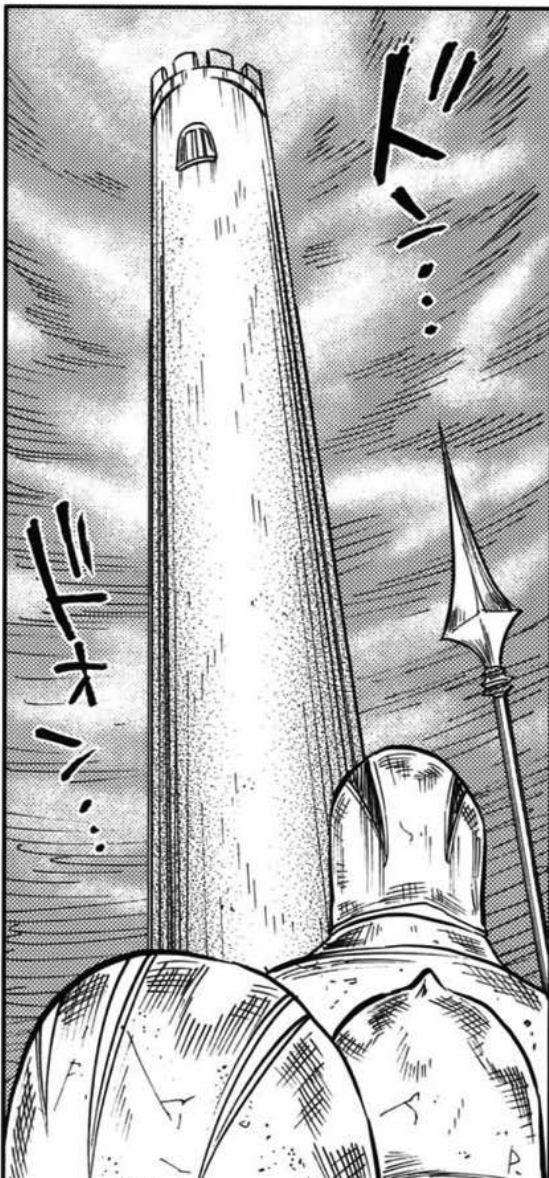
隊長



おまえは



王の首を拝んで
この戦は仕舞だ



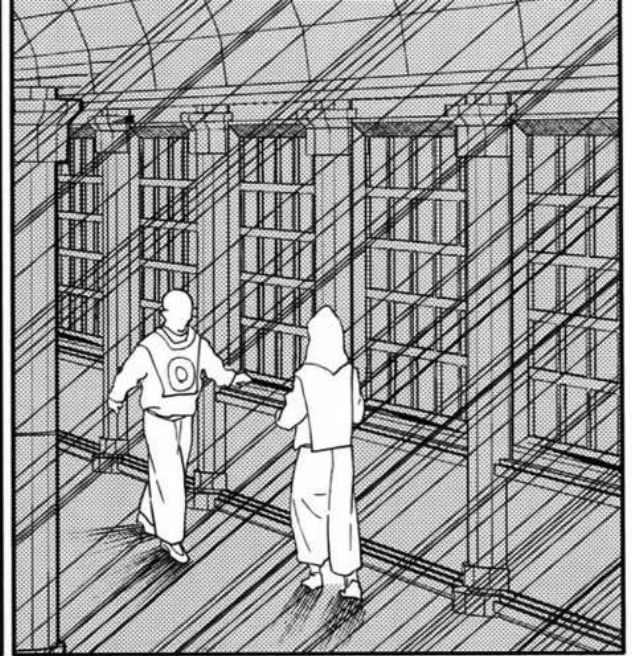
自分は以前まで
この城の者でした

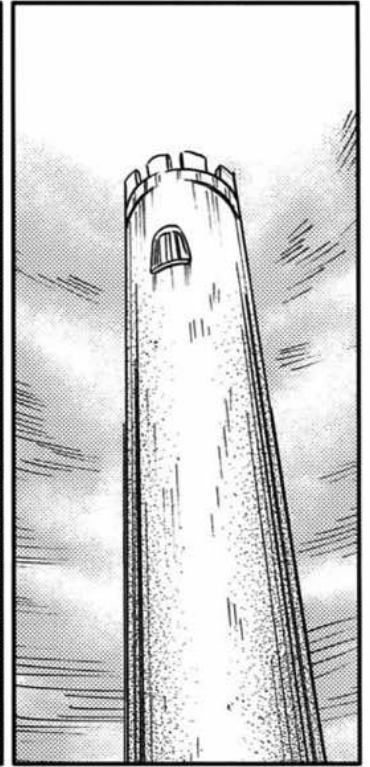
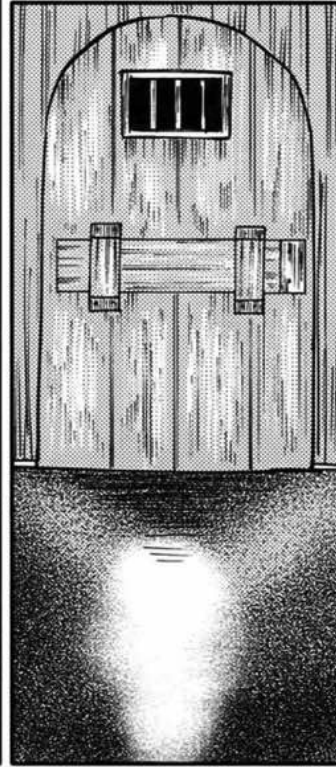
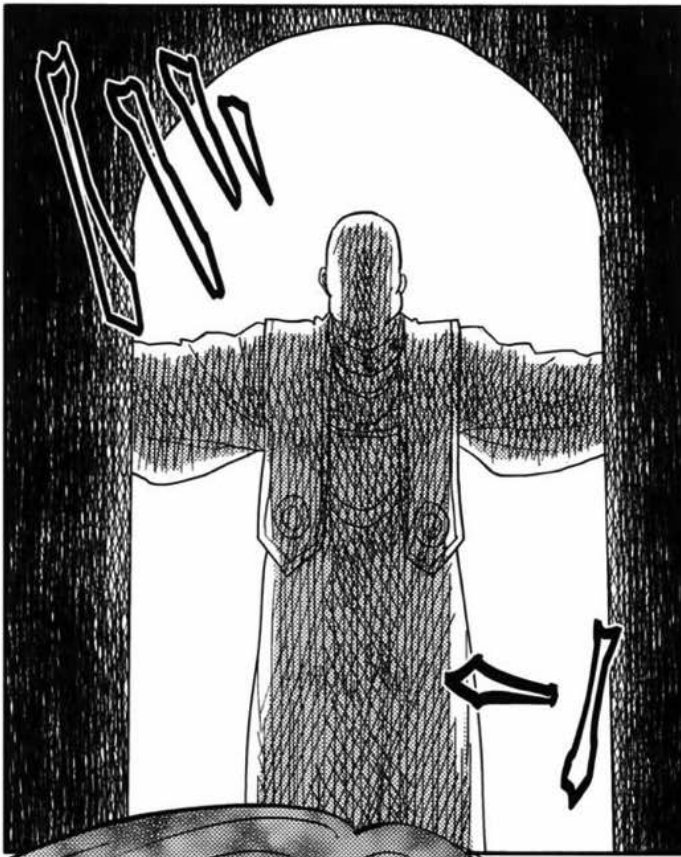
ですので王が今
どこにいるのか

こうなった時
どうするのか
自分には
目星が付きませ

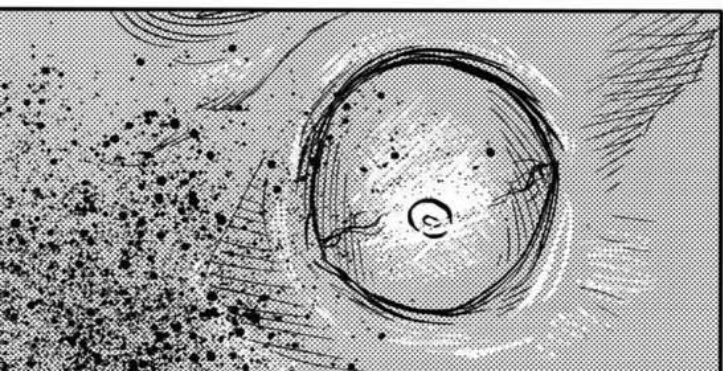
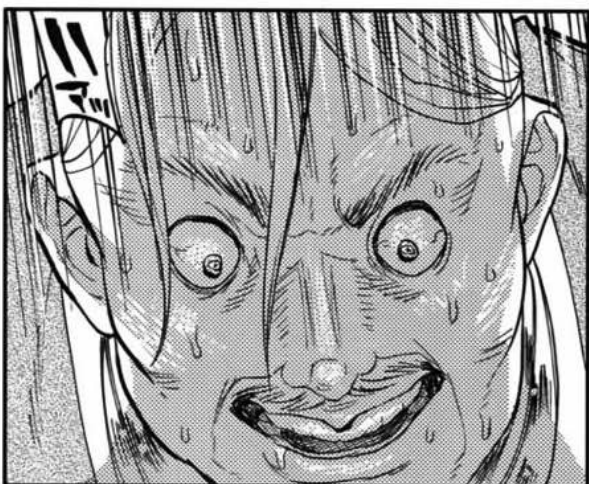
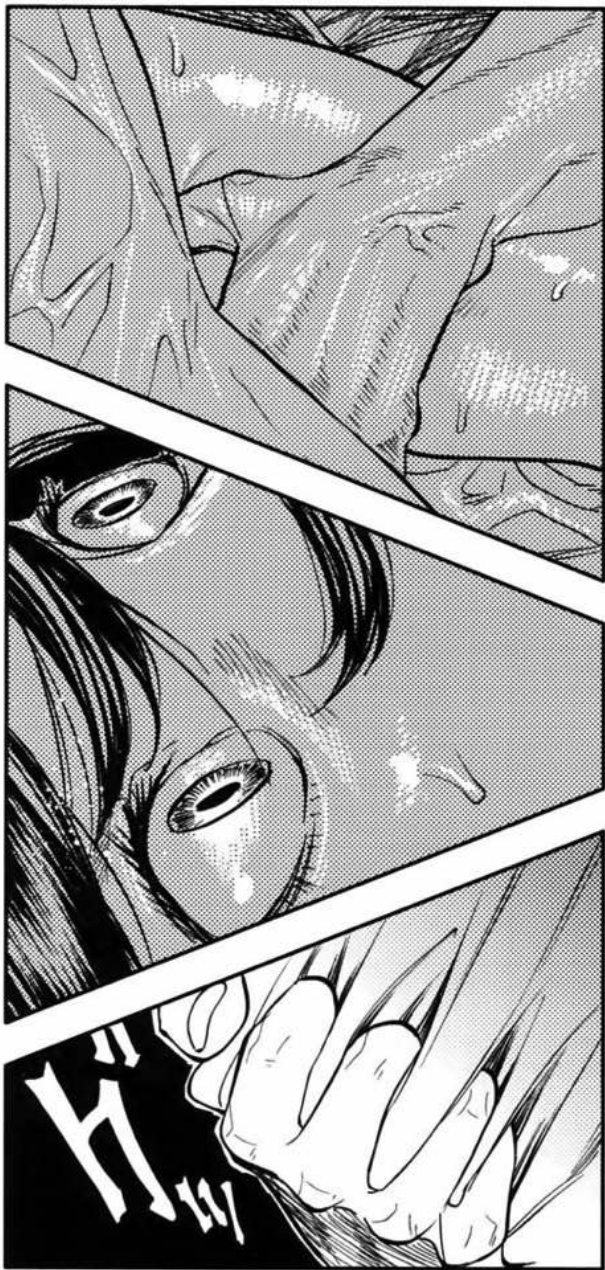


よし
任せるぞ

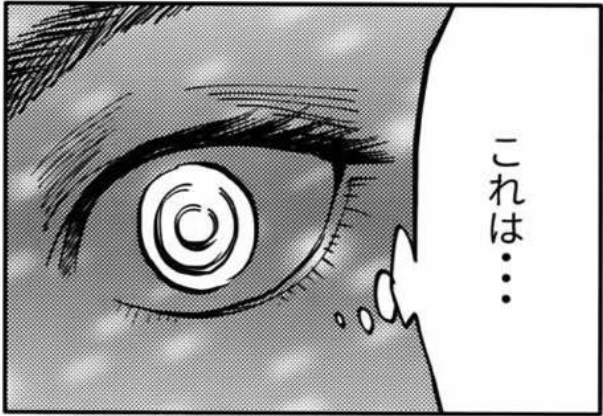
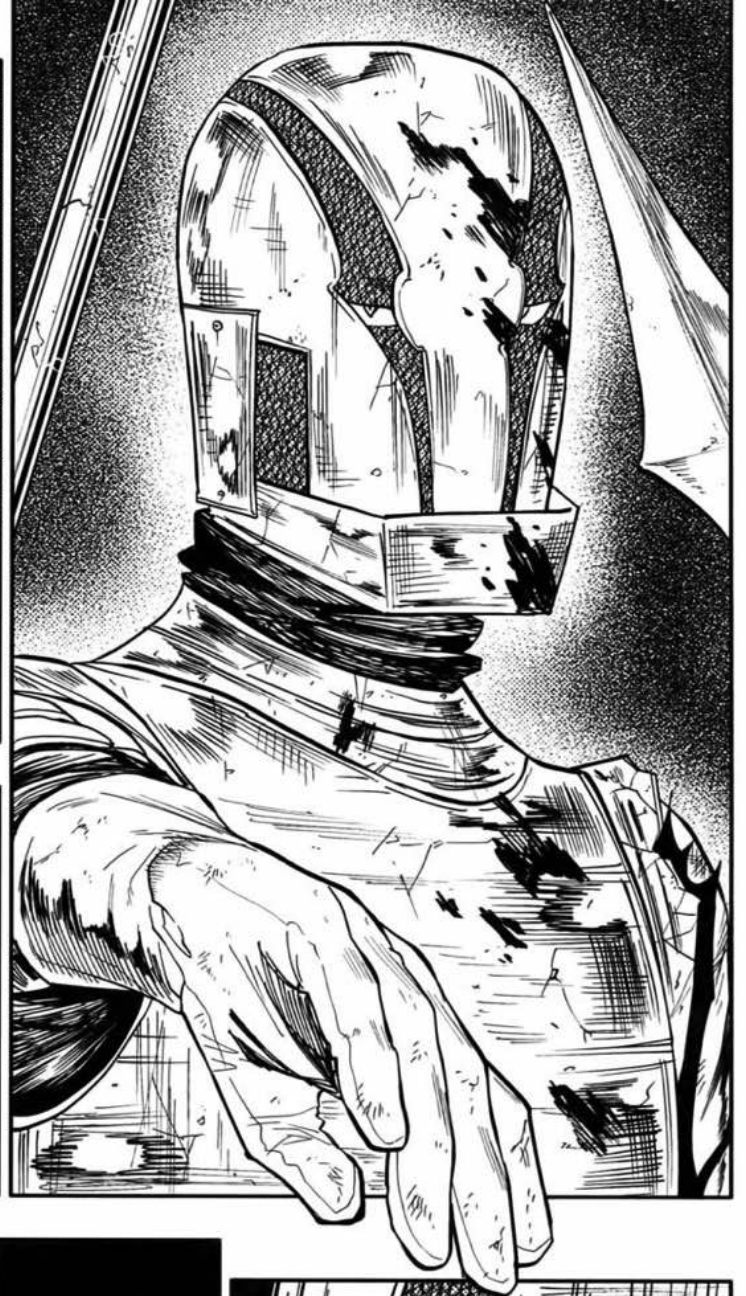
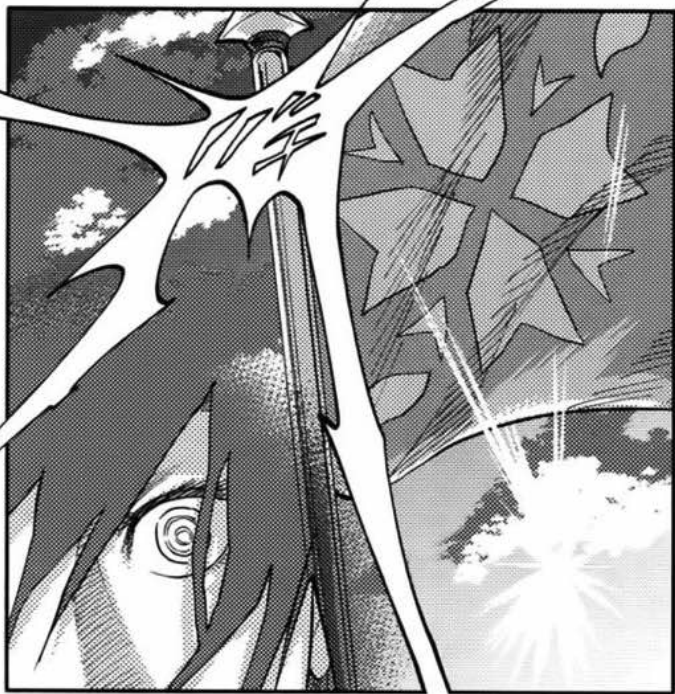












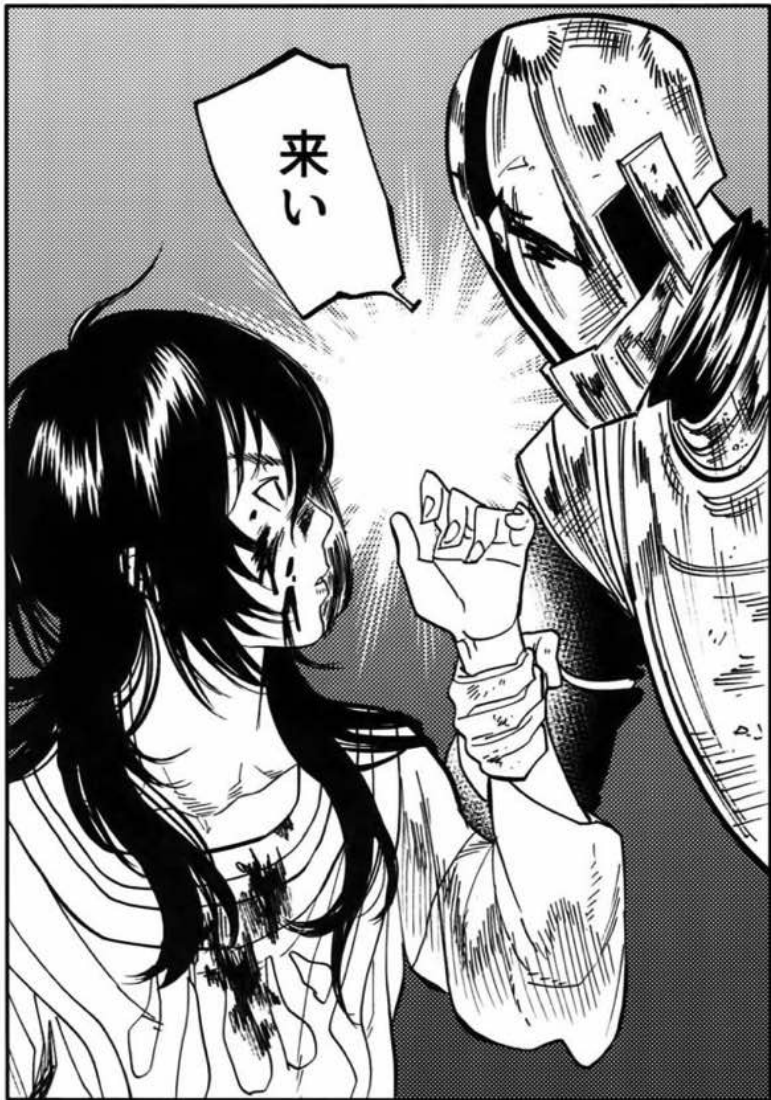
これは...





女……？

いや
男？



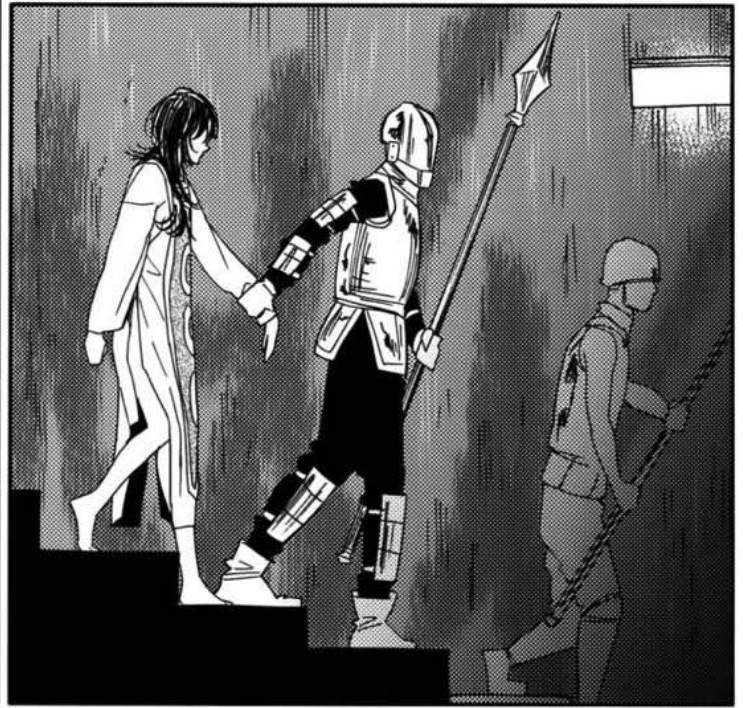
来い

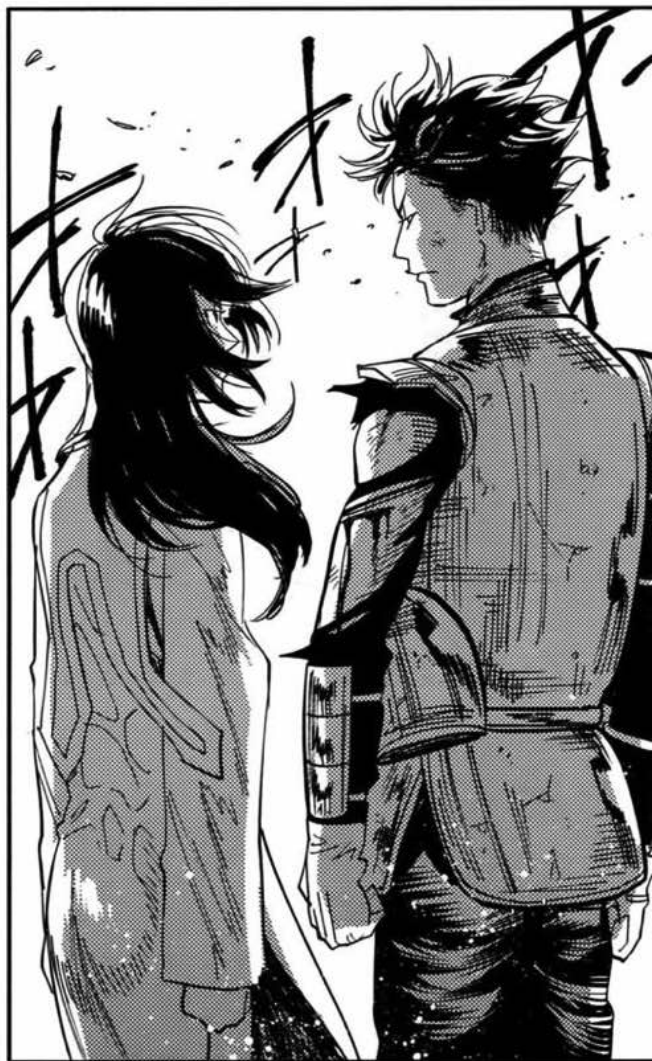


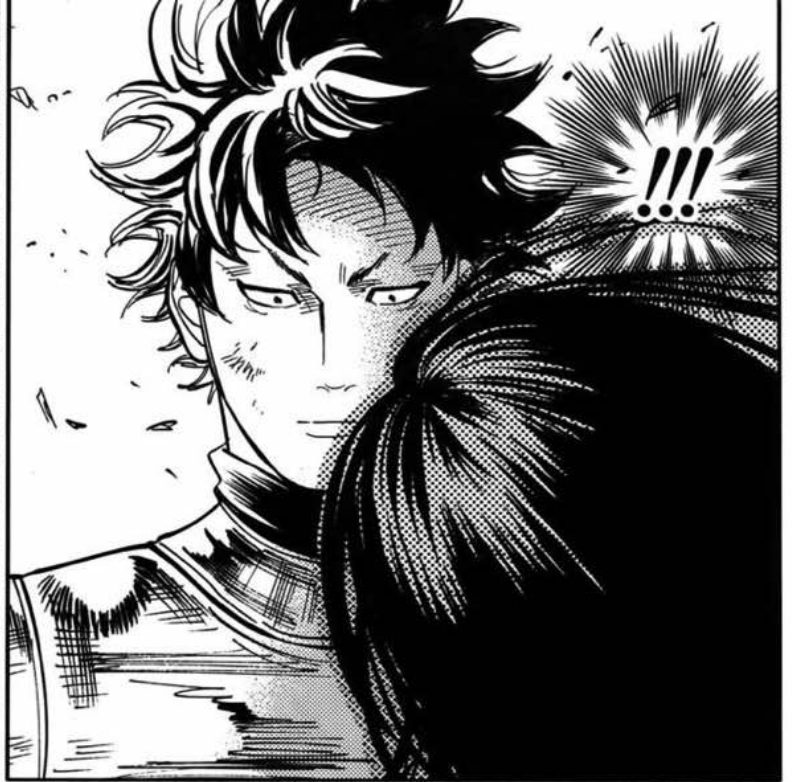
国王は討った！

敵兵どもが
上がってくる前に
引くぞ！！

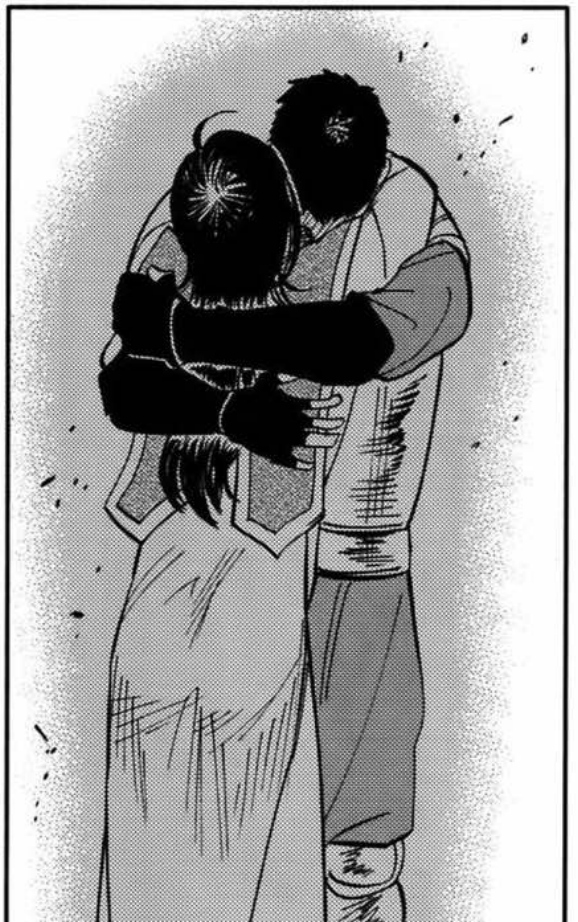


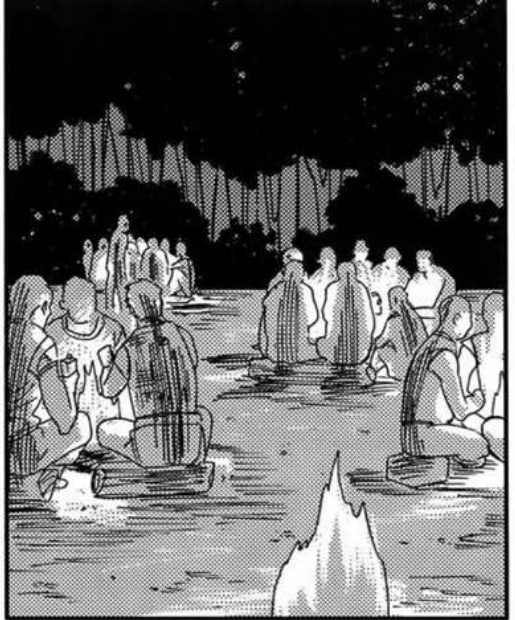






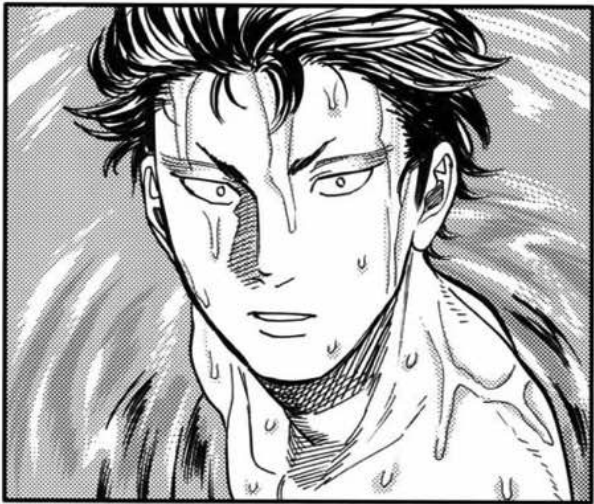
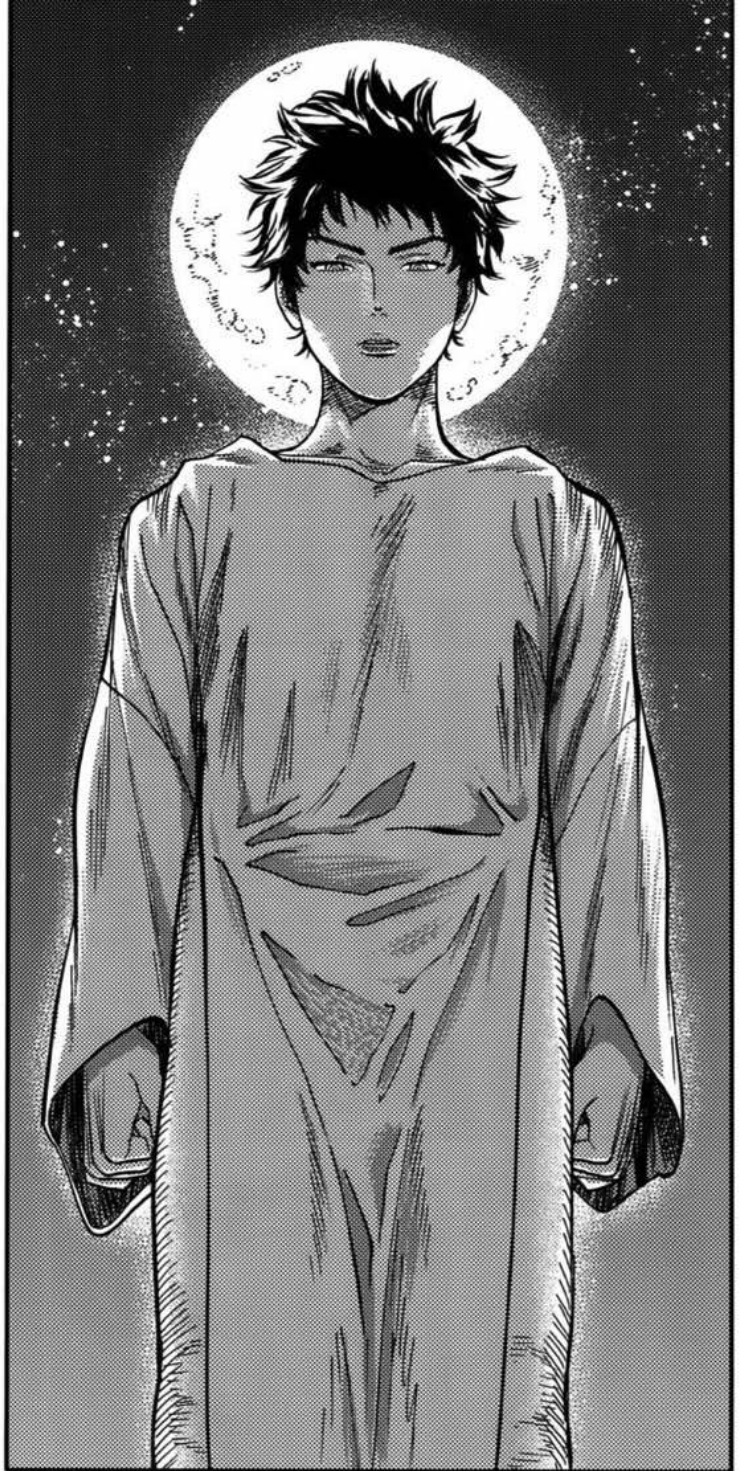














言動が時折
実年齢より
幼く感じるのは

閉じ込められて
いたことで
成長していない
部分がある為か

：カサハラとは
知り合いだったか

ああ：カサハラが
ここにいたことは
驚いた

カサハラは一家で
バルバロネ城に
務めていた

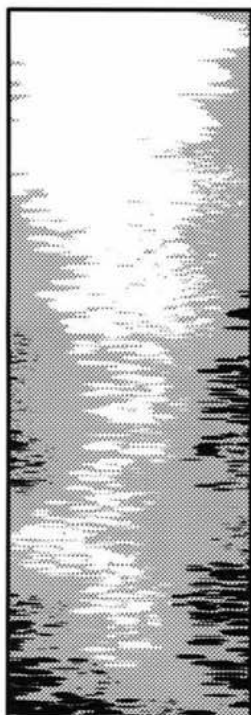
俺が塔に
閉じ込められてからも
カサハラは俺に
会いに来てくれた

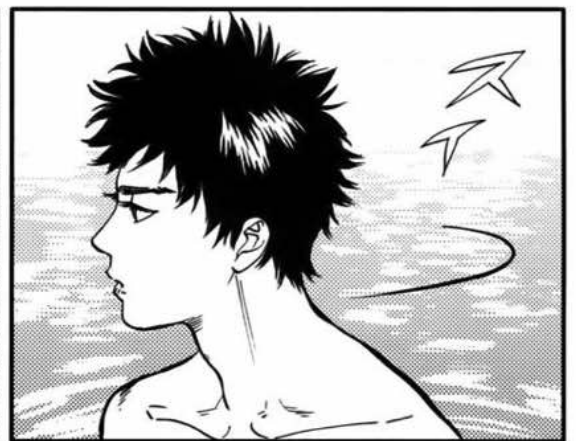
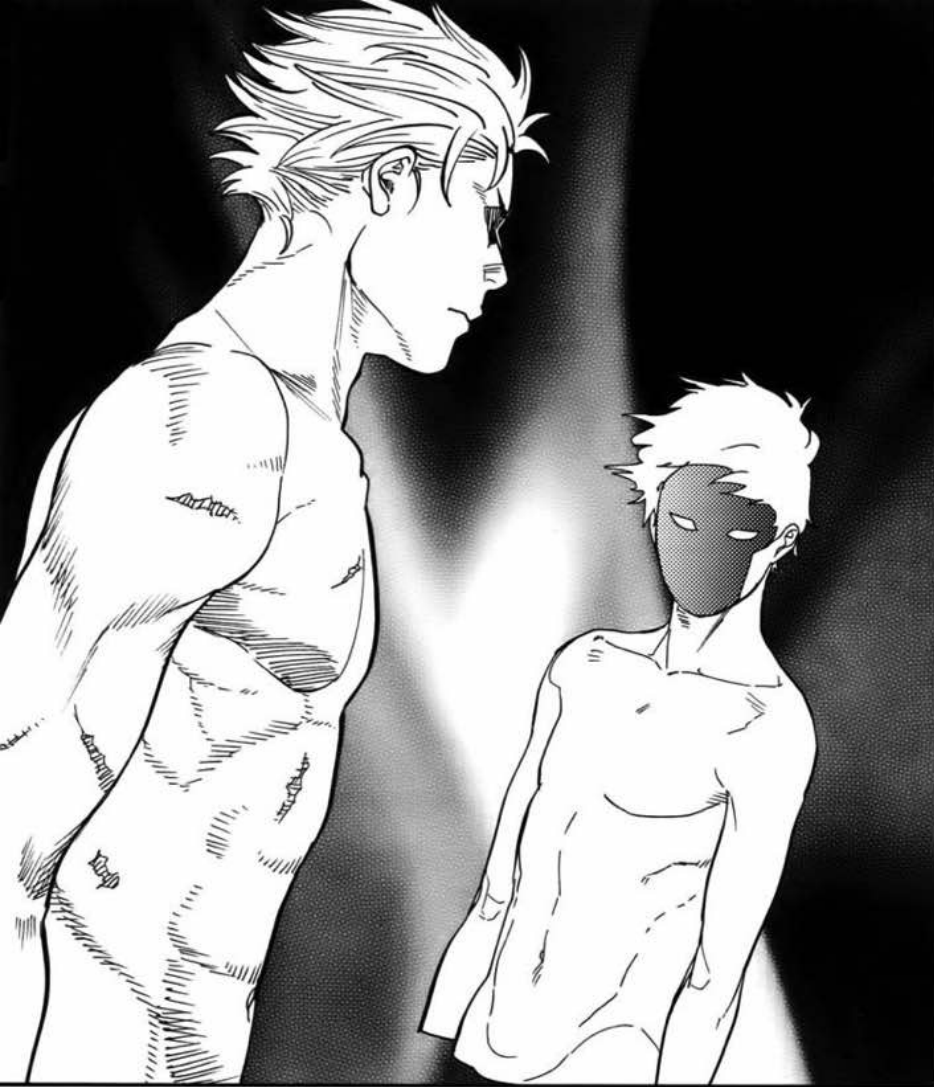
俺たちは
友達だった

カサハラに会えて
嬉しかった俺は
来ちゃいけないと
言わなかった

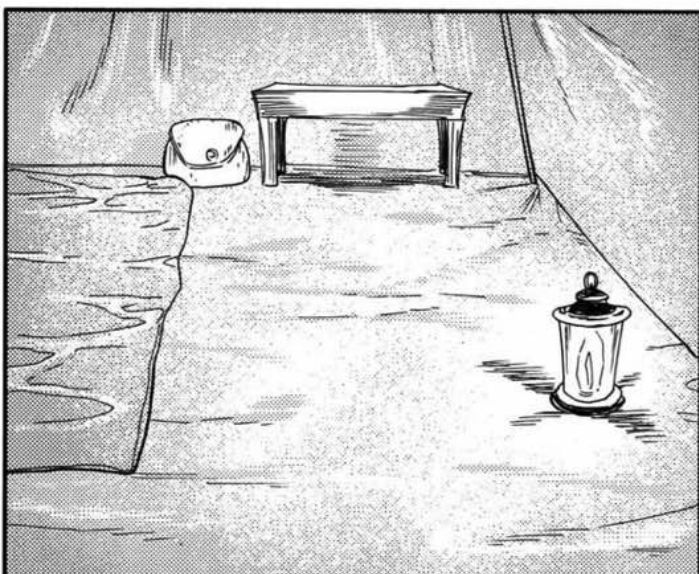
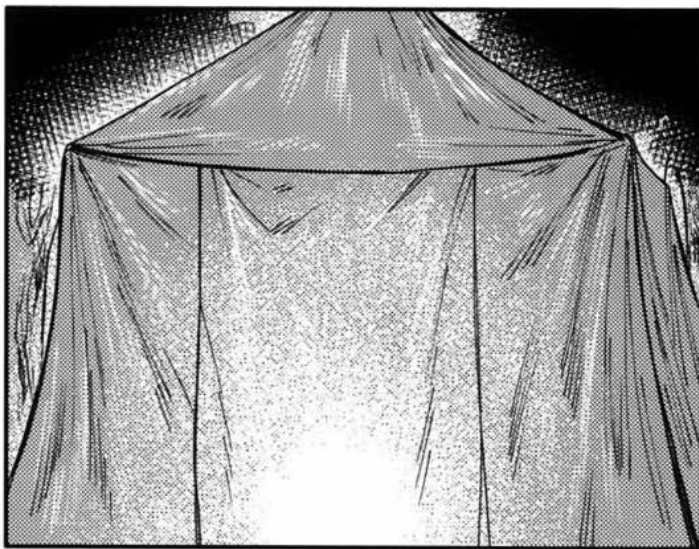
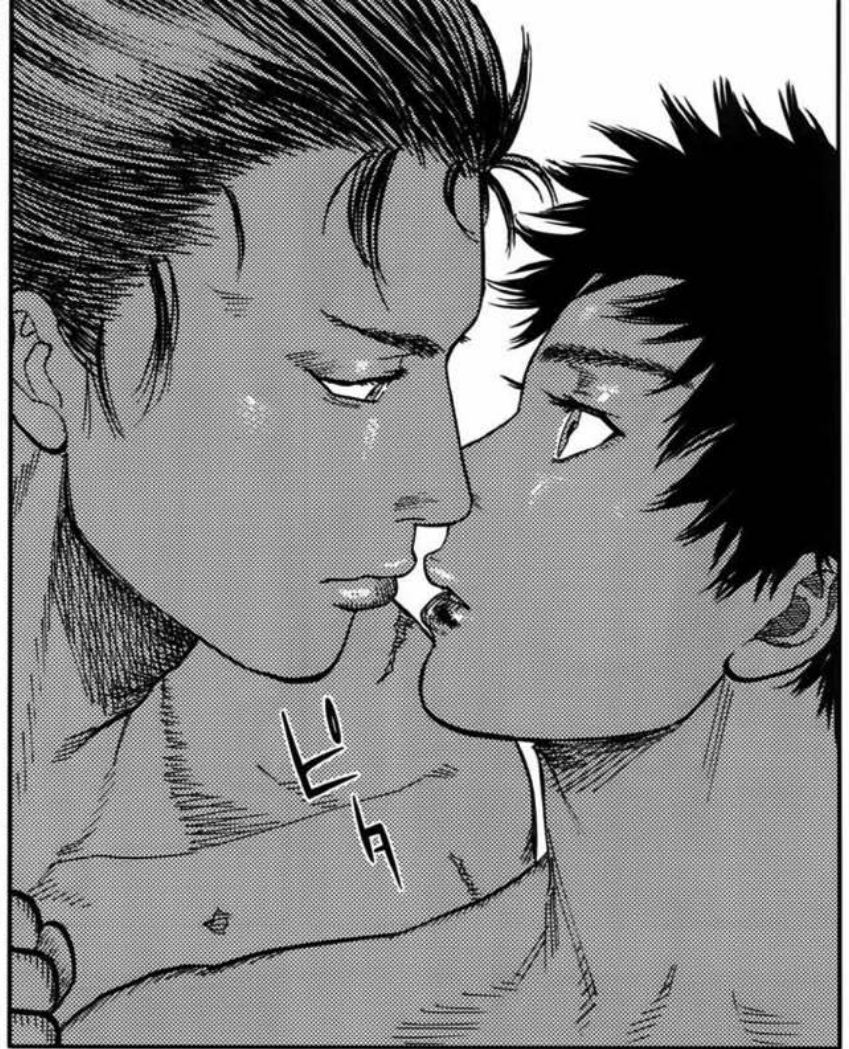
俺のせいだと
3日3晩
泣いて悔やんだ

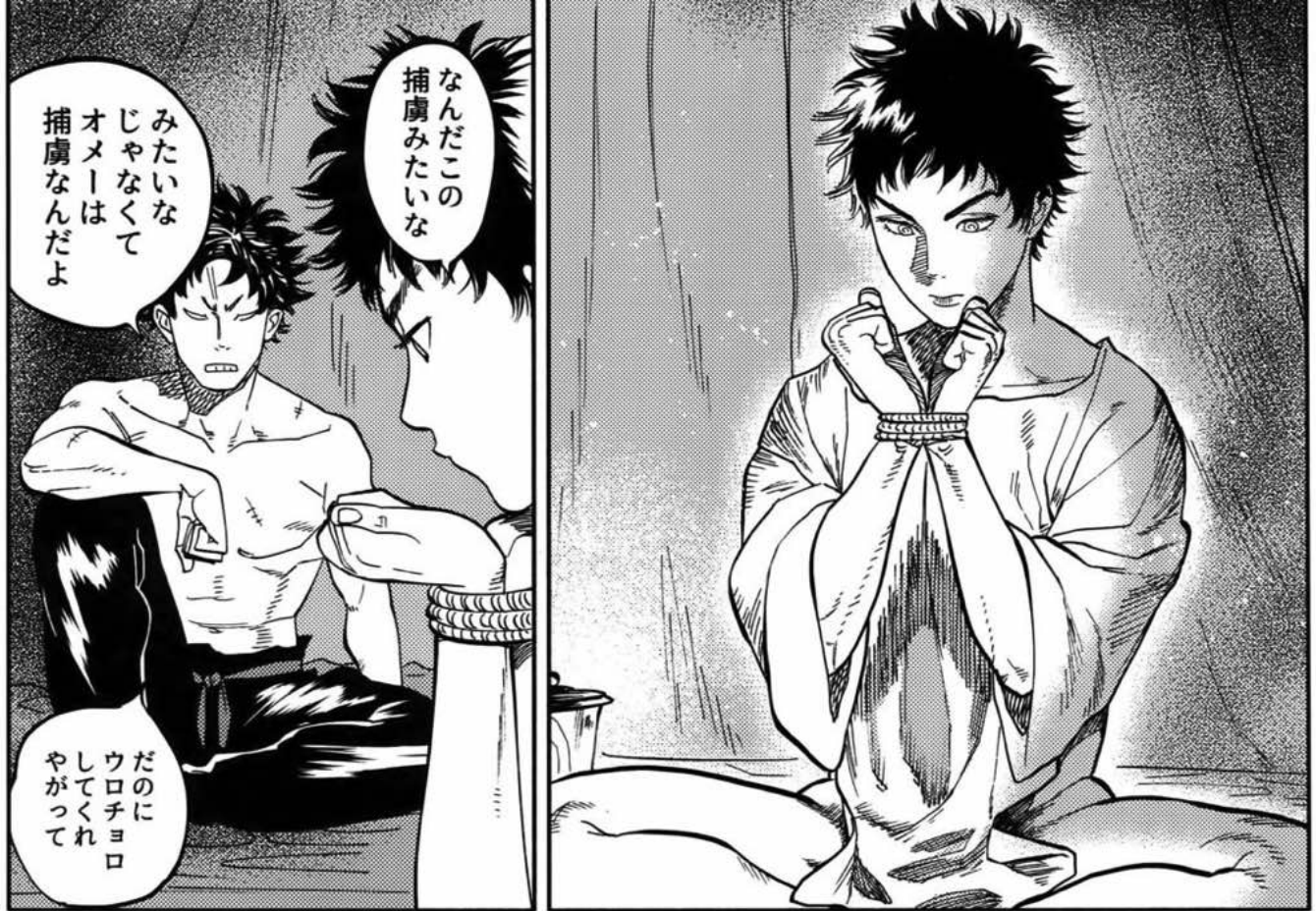
しかしそれが
国王に見つかり
一家で国を
追い出されて
しまった











なんだこの
捕虜みたいな

みたくない
じゃなくて
オメーは
捕虜なんだよ

だのに
ウロチヨロ
やがって



……
おまえは
導きの者と
いったな

捕虜か
ふん

どうだちよつと
怖いだろ？ん？
捕虜ナンダナー
っていう自覚
でてきたる？
殺されちゃう
かもよ~~~~



バルバロネが
低い兵力でありながら
戦争を乗り越え
繁栄を続けてきたのは

予言者や巫女……
そういつた存在が
国を支えて
いるのではないか
他国の間では
有名すぎる噂だ



おまえは
なにが
できる？

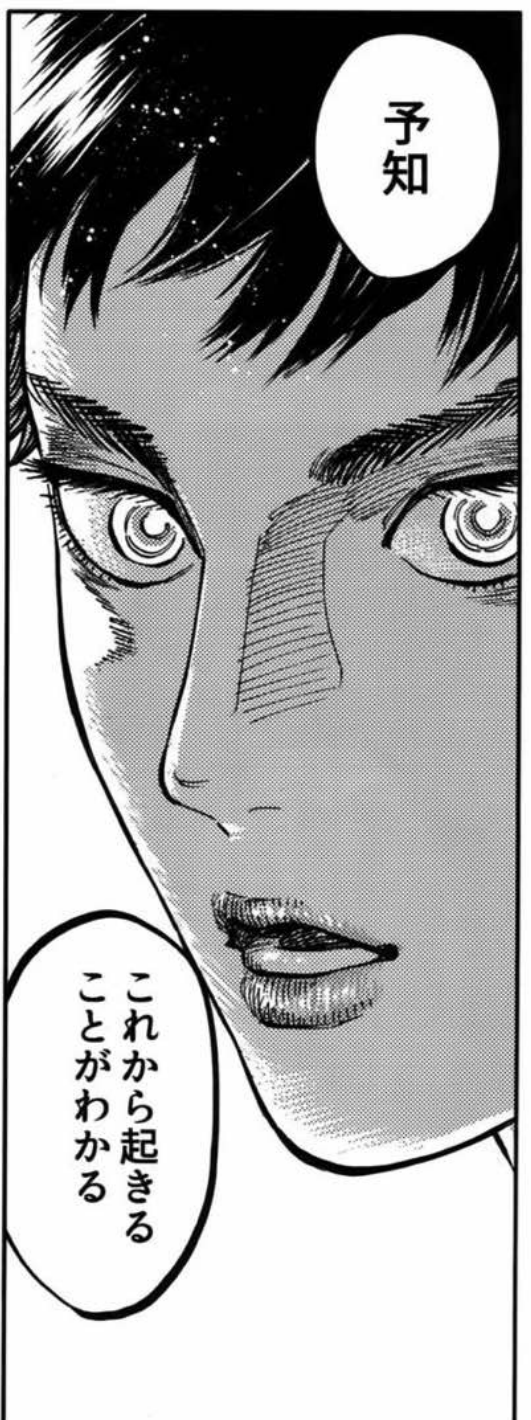


まさか
噂が本当
だったとはな
.....



訪れるのが
災いか幸いかも
わからない曖昧な
予知しかできない
こともある

しかし絶対な
わけじゃない
誰がいつ
攻めてくるか
わかる時もある



予知

これから起きる
ことがわかる



ではなぜ
バルパロネは
俺たち桜木の軍に
容易く敗れた？



来るは
桜木の軍
カオル
おまえには
今日のことも
視えていたな



おまえが今日
導いたのは

バルパロネではなく
俺たち桜木の軍だった



おまえは予知を
国王に伝えなかった

おまえは自分の意思で
バルパロネ王国を
崩壊させたんだ

頭がいい

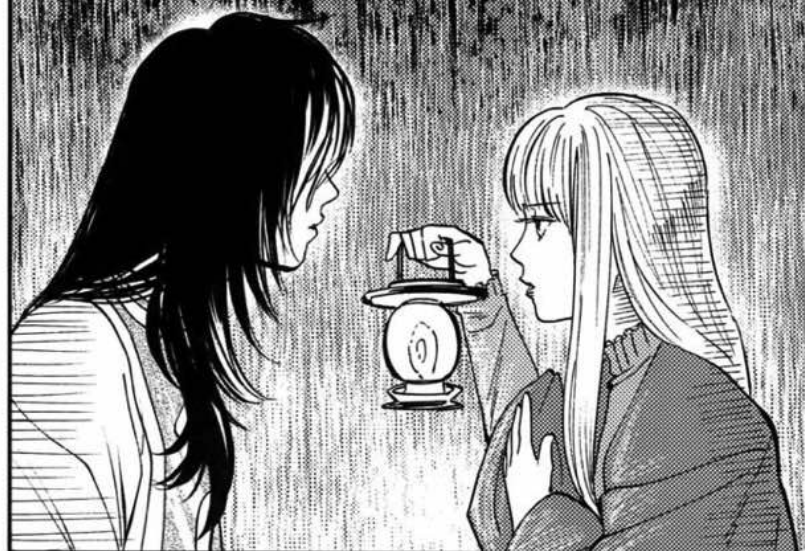
おまえは

王家はもはや崩壊していた

国王は政治に無関心で私利私欲を満たすことにしか興味がない男

役人たちが城下の管理の手を抜いていることにも気づかない

城下は整備もされず貧しく荒れた



このままでは国がどうなるか予知も視えた

導きの者として俺はこの国を未来へ導く義務がある

桜木の軍は無益な殺生をしないと聞く

現国王より桜の軍の領地となったほうが民のためだろう

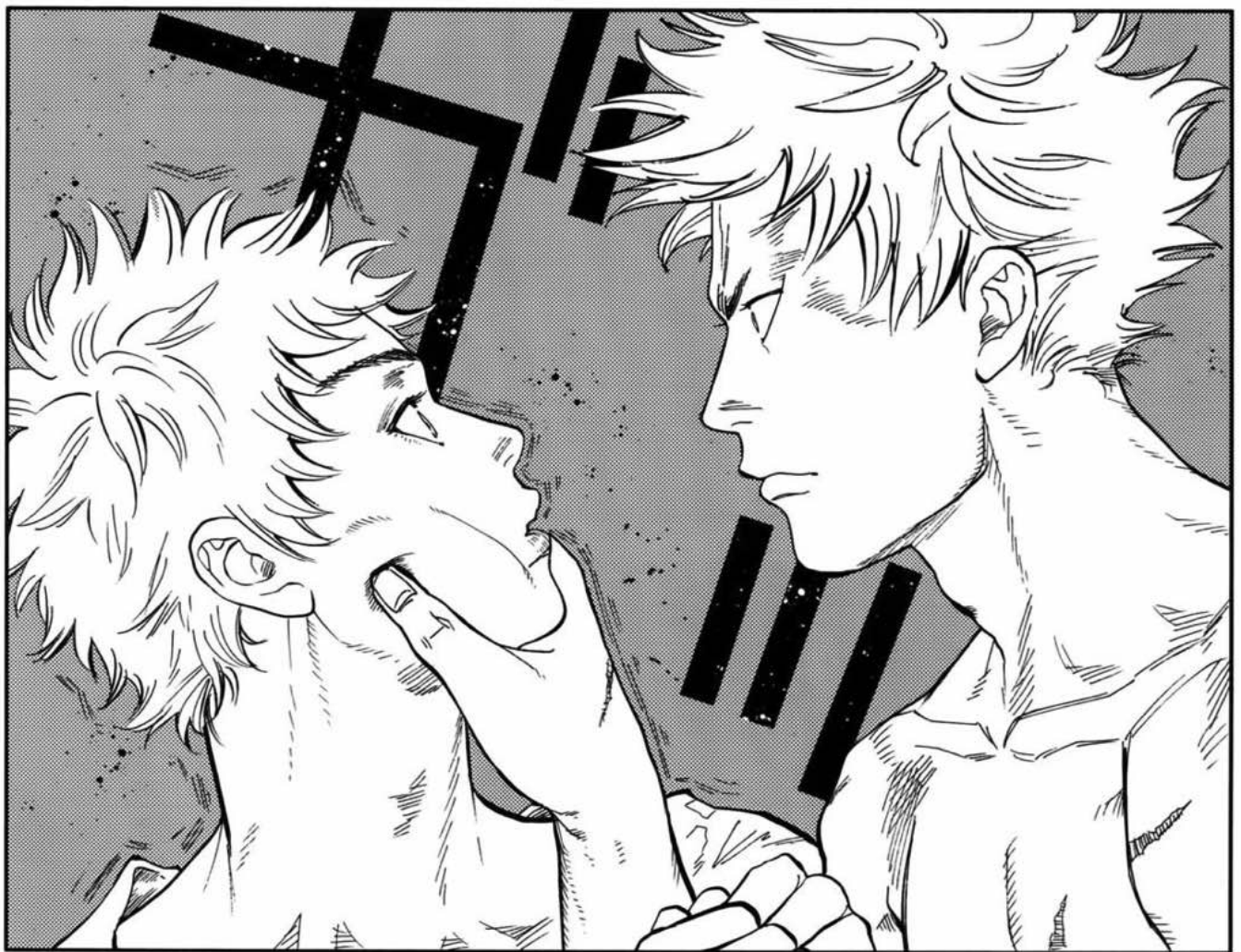






皆を王家の
支配から
解放する

それさえ
できれば
俺は……



おまえ
まさか……

今なぜ俺の
心の中の考えに
返事をした

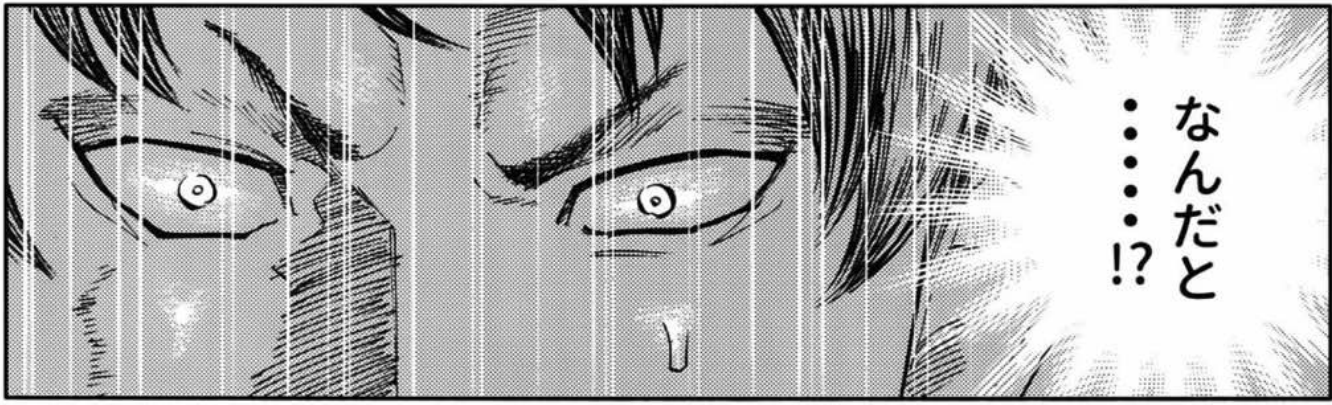


人の心を読む
能力がある



……そうだ

導きの者には
もうひとつ



なんだと
……!?



その気になれば
手に取るように
わかるのか

……



予知に
読心

どの国家も
軍も
喉から手が
出るほど
欲しい能力

導きの者に
微笑まれた国は
永久に繁栄
するであろう
ことは確実!!



神のような
ことはできない

予知より
もっと曖昧で
もっと偶然だ



近くにいる
人間の思考が
今みたいに
はつきり読める
こともあるが

相手が空腹だとは
わかってても
何を食べたいか
まではわからない

具体的な
考えまでは
わからない
ことの方が多い

肉



あの時……



触れるともう少し
詳細にわかる

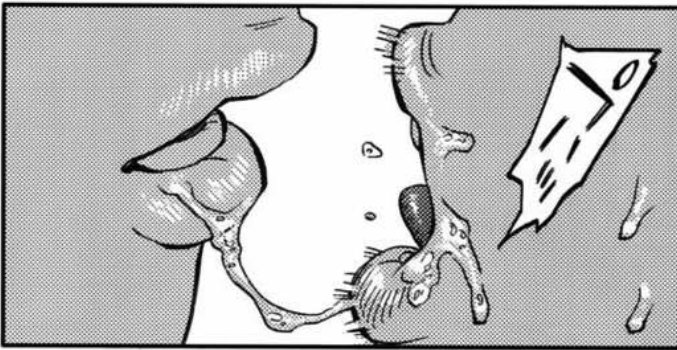
時々……触れるだけで
相手の考えが映像として
頭に流れてくることもある



クニ









聖人じゃ
あるまい
そんな
驕りはない



戦の後だ
そういうことも
あんだろが

だからって
突然なんだ

救った礼に
慰めてやろう
ってか？



なんだそりゃ
おまえの
宗教かア？

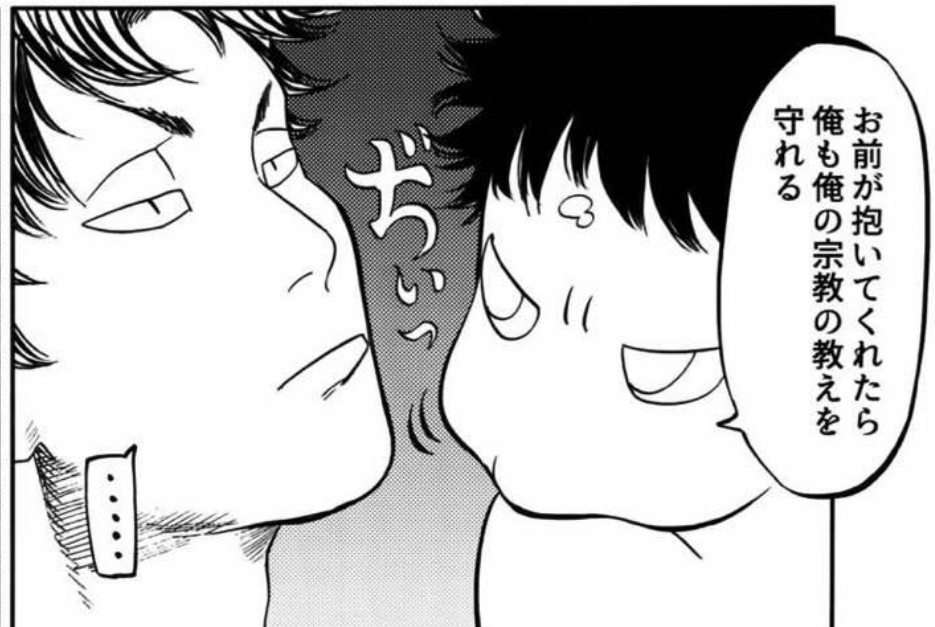
そんなような
ものだ

爺さんに…
人に助けてもらった時は
必ず相応の礼をしないと
いけないと教えられ育った
そうしないと次からもう
親切はやってこない
次困ったときにまた
誰かに助けてもらうために
その時その時しっかり
礼を返さなければいけない



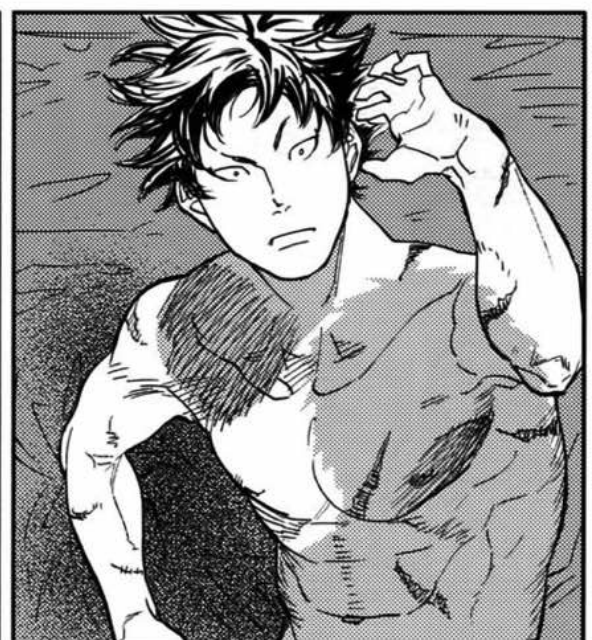
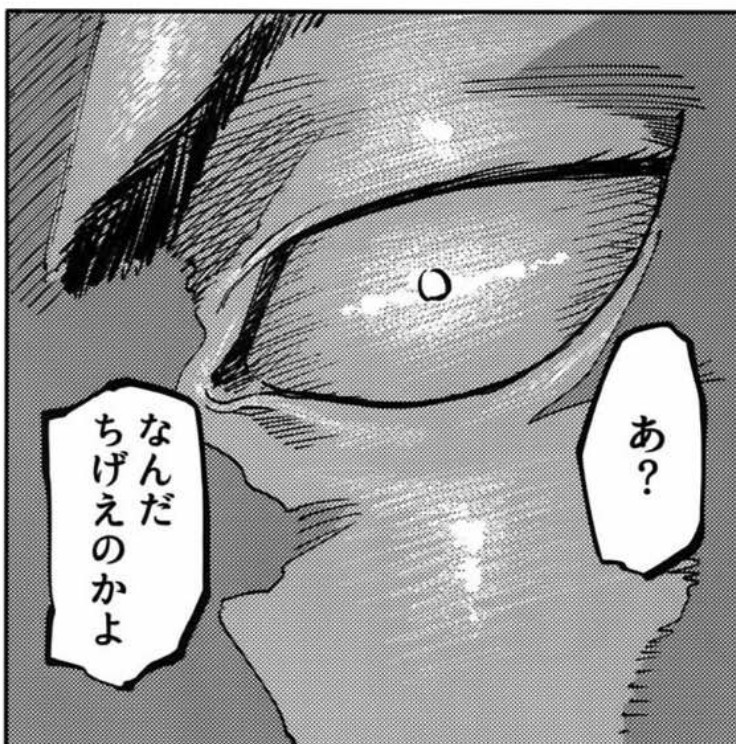
利が一致
している

そう



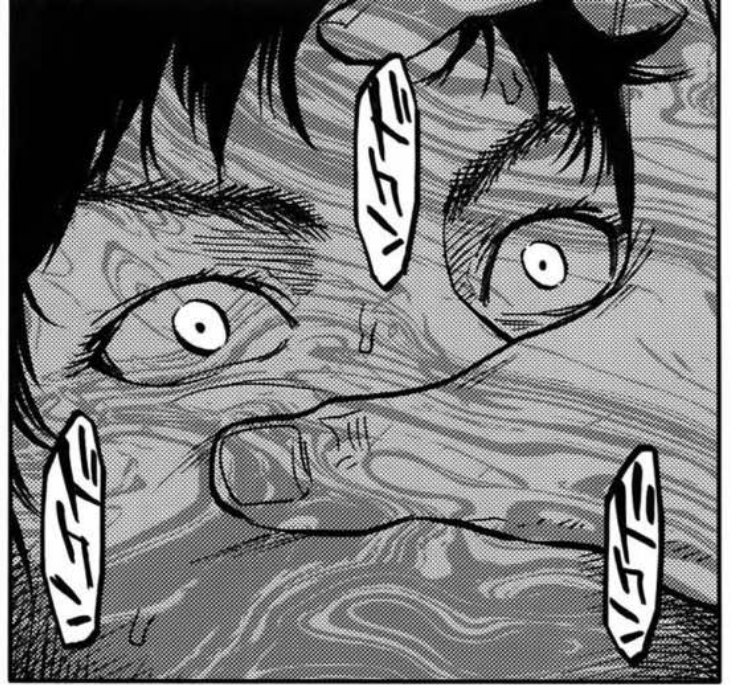
お前が抱いてくれたら
俺も俺の宗教の教えを
守れる











やっぱり
やめてだの
助けてだの

なにか言えば
止めてやっても
いいと思ったが

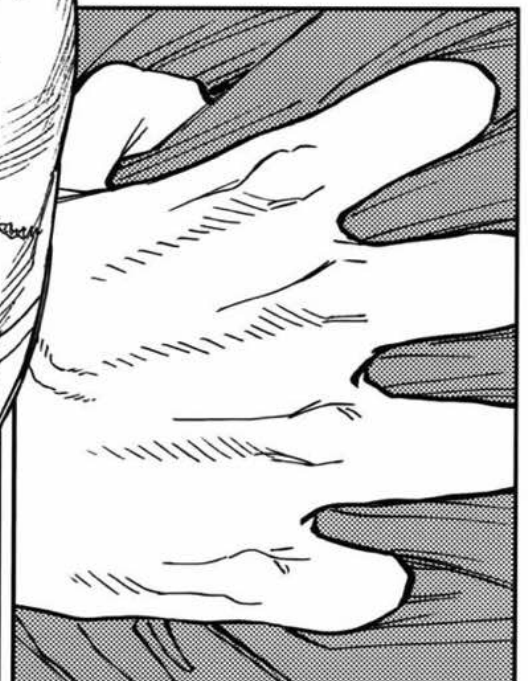
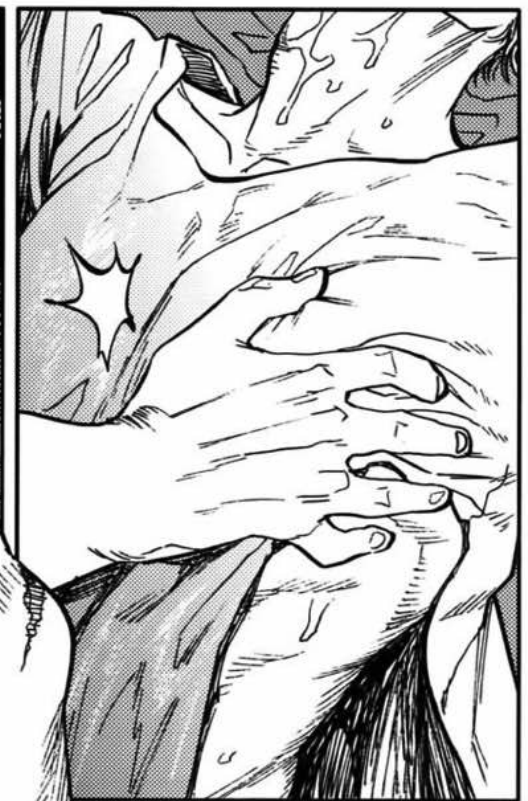
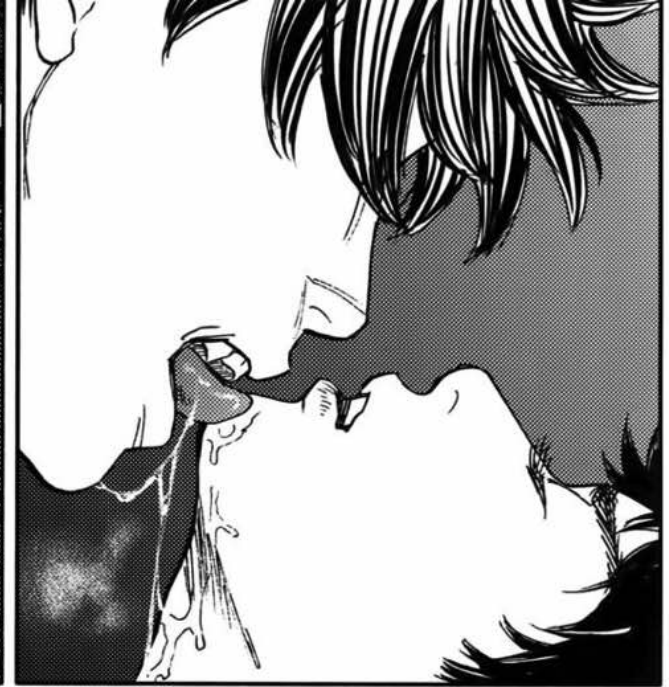


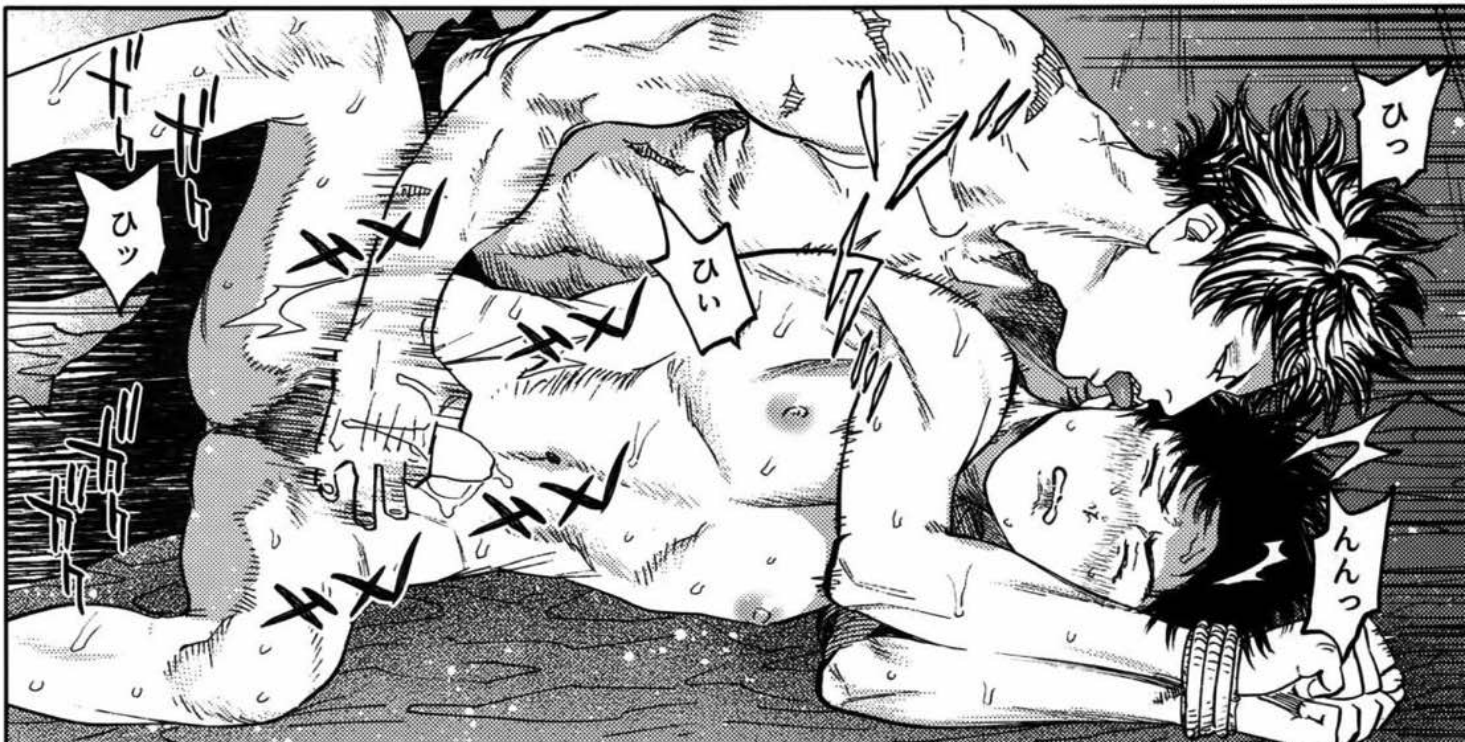
いっね



そんな
格好悪い
ことができるか



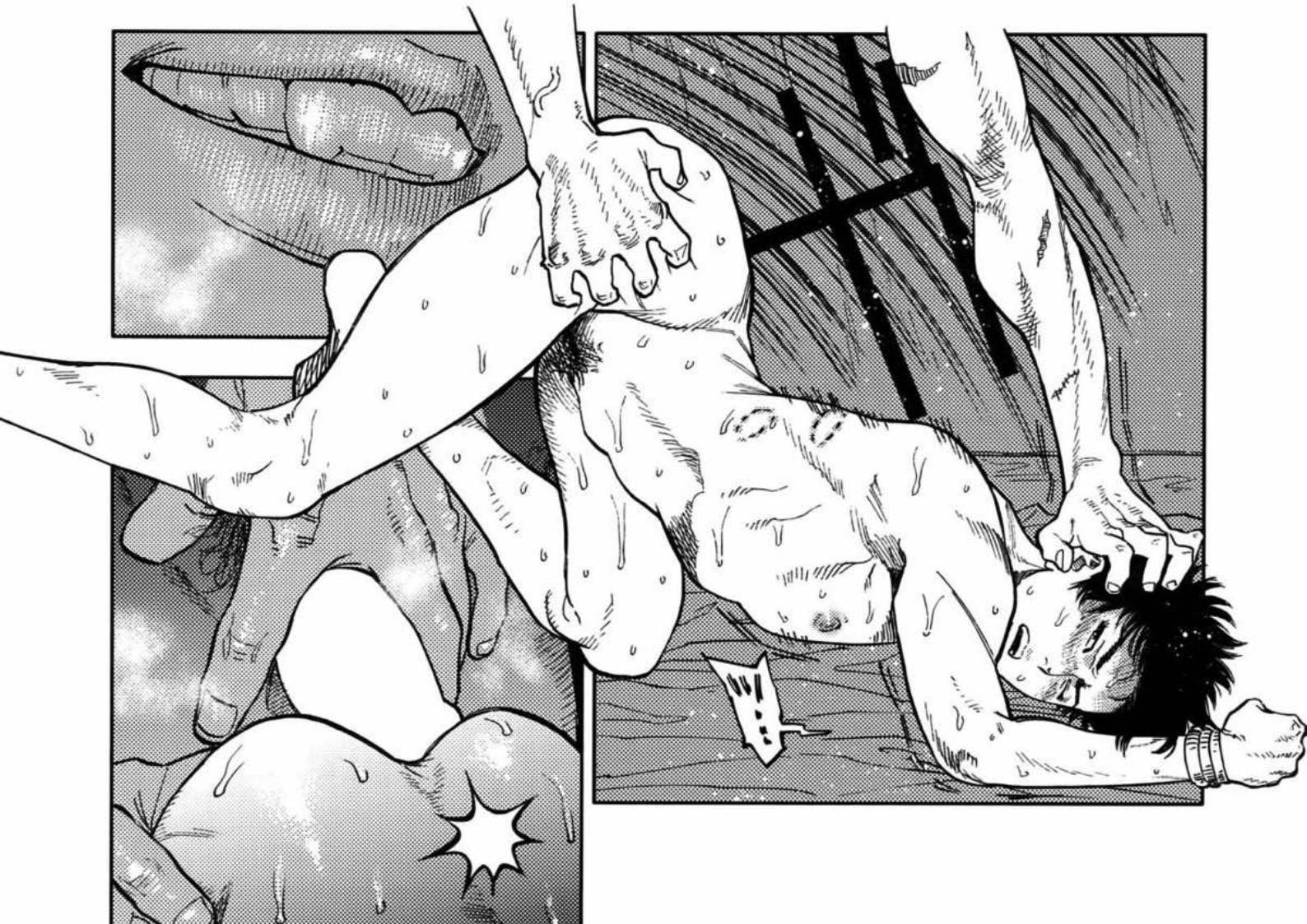


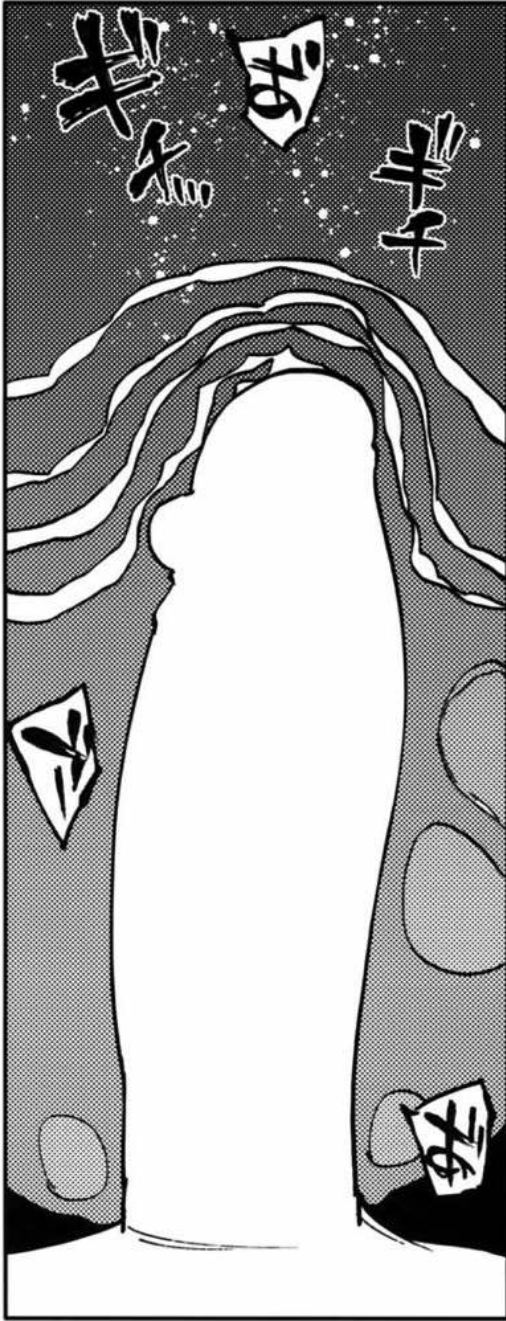




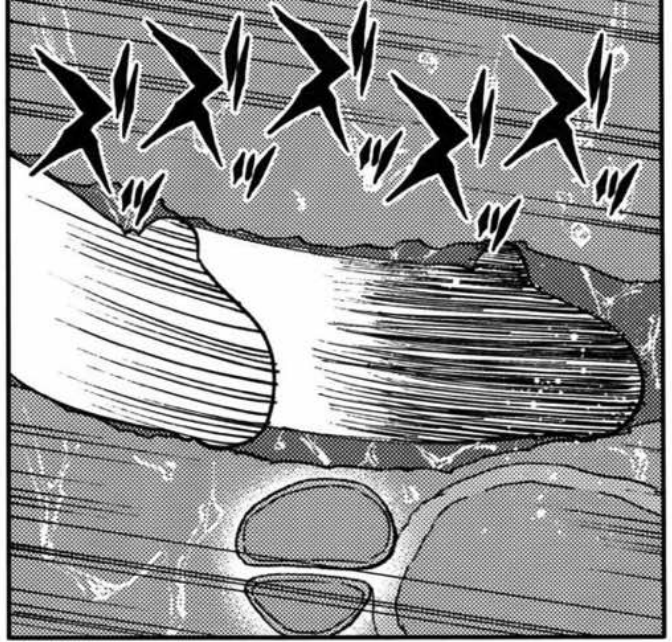


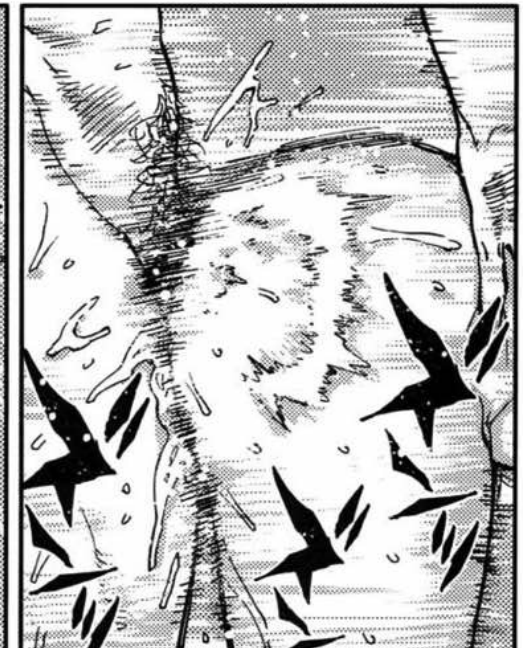


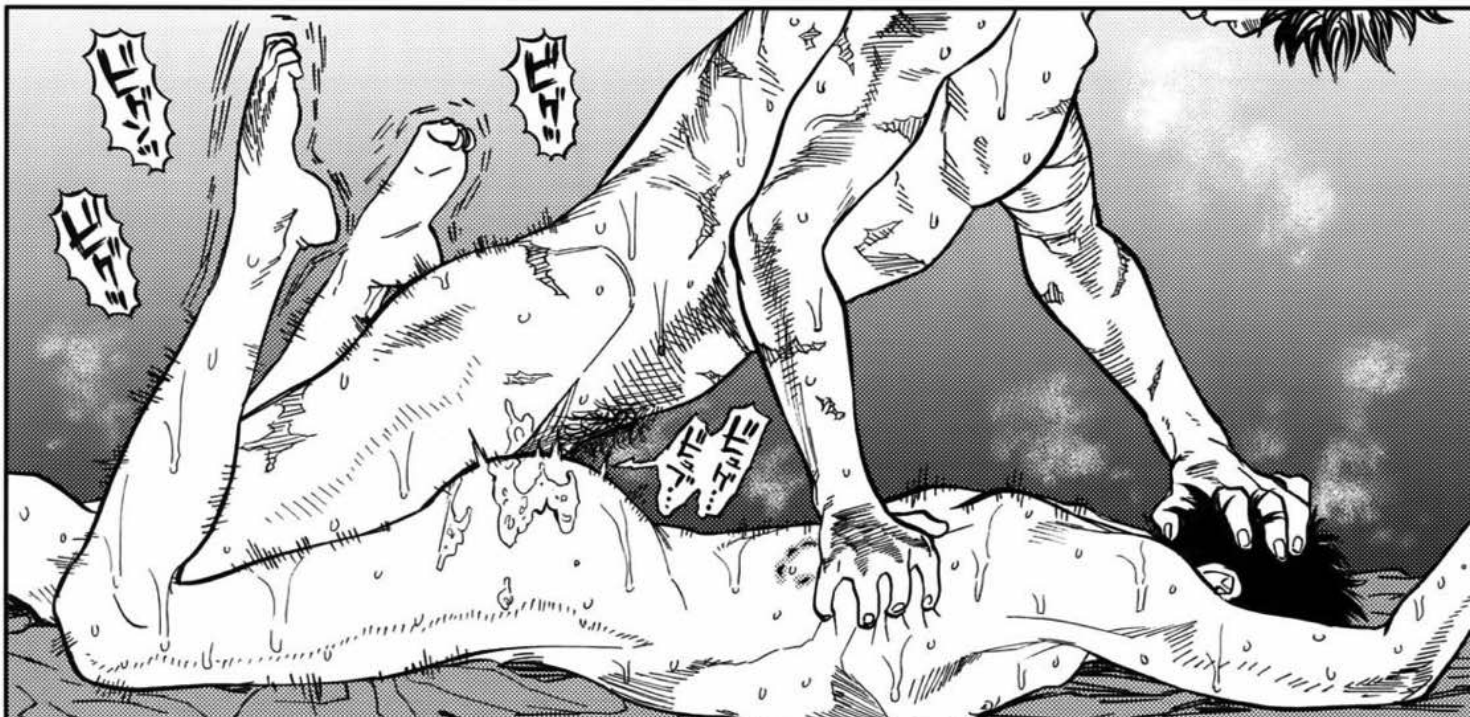




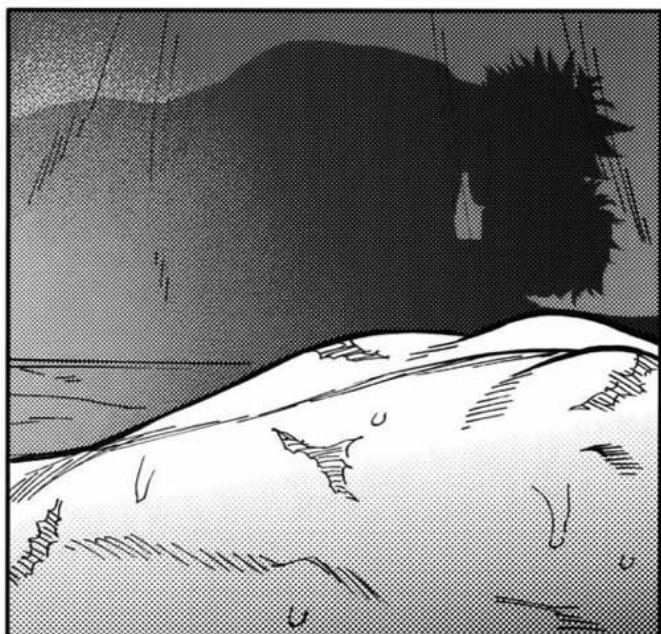
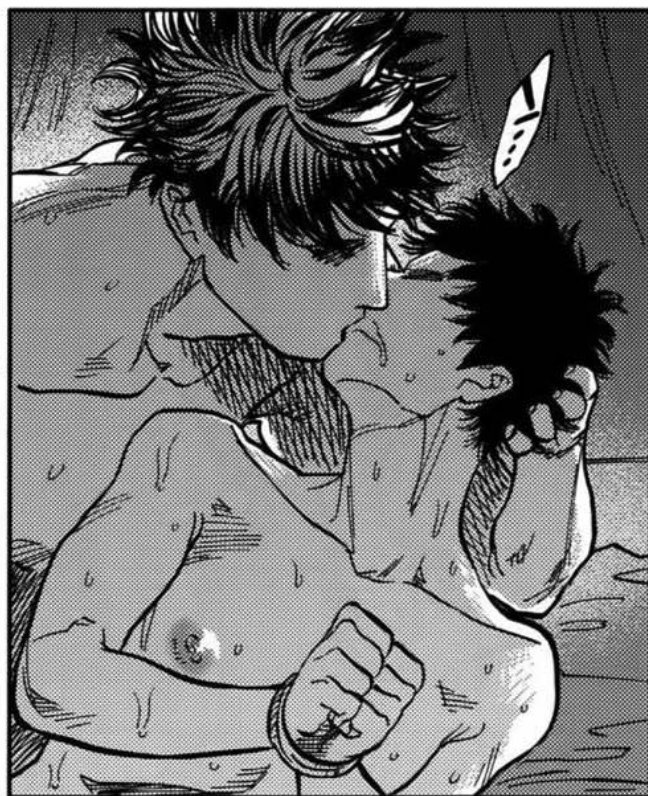
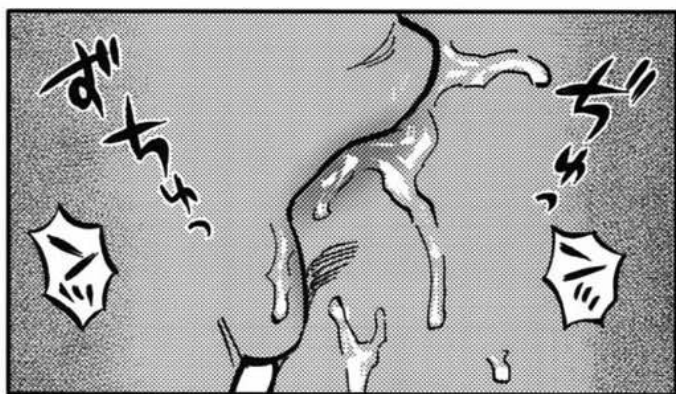
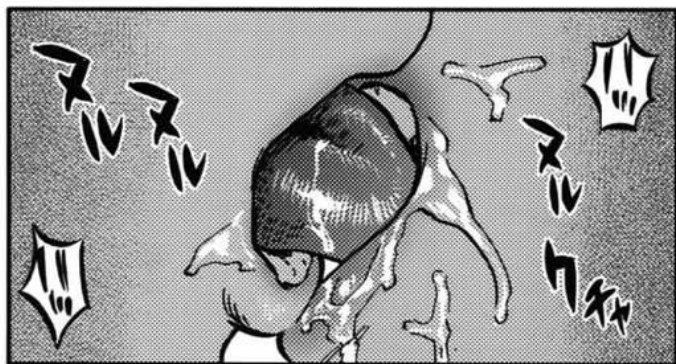


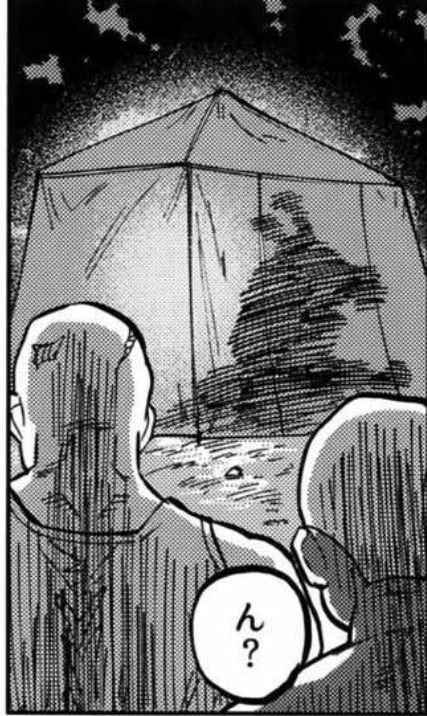




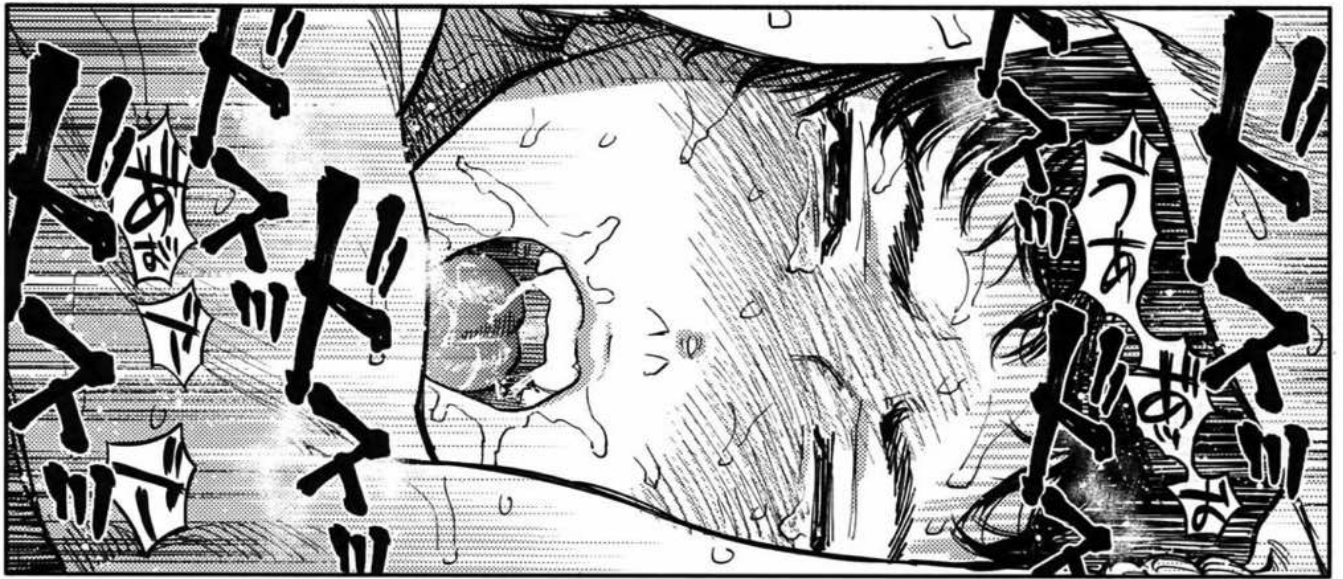


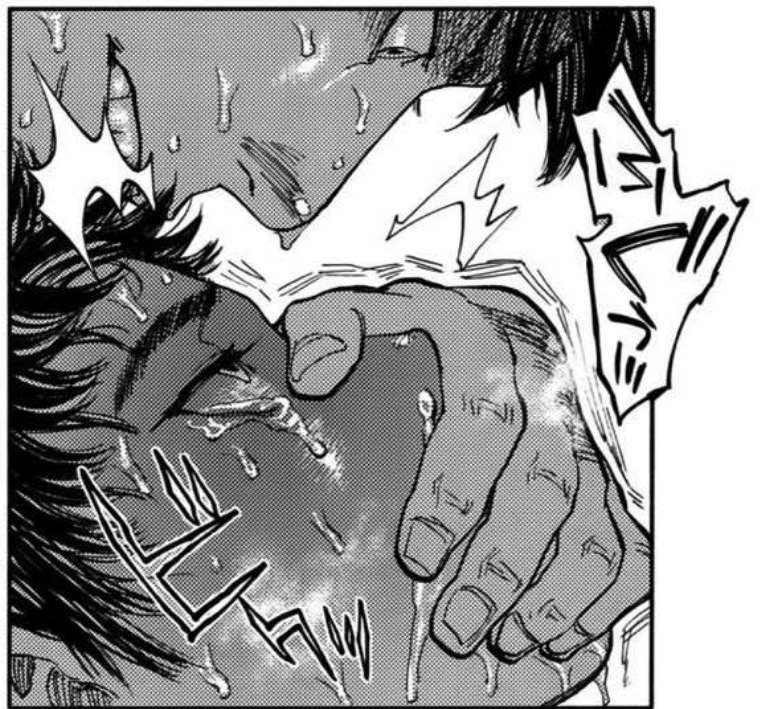
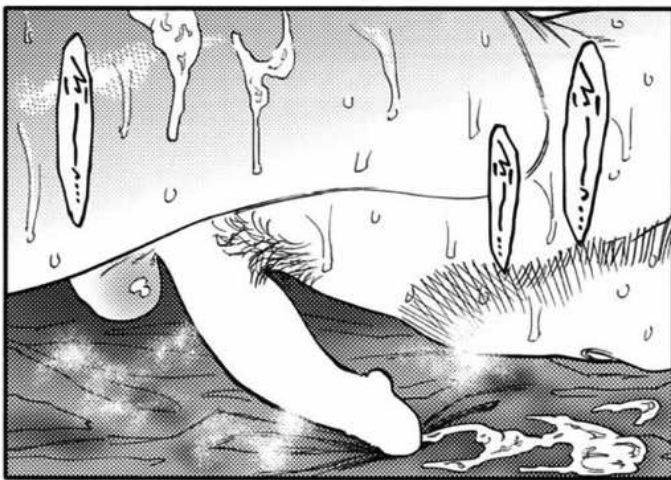
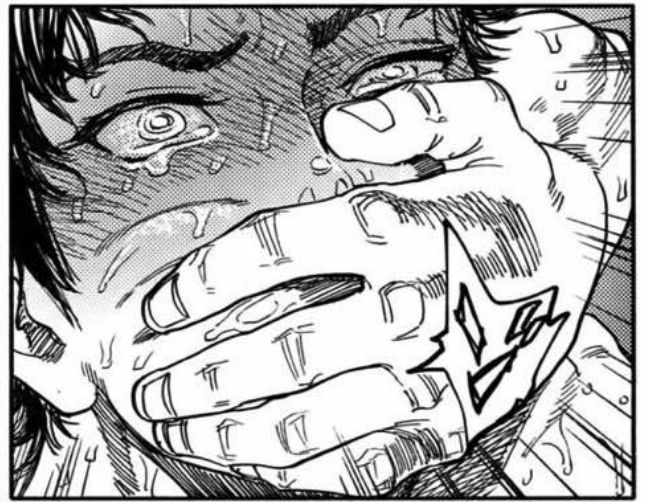














やられたなー



戦あがり
昂ぶっている
とはいえ

おまえの宗教を
守りたいっつー
自己満足を完全に
叶えさせられた

バルパロネとの
戦から
今この瞬間まで

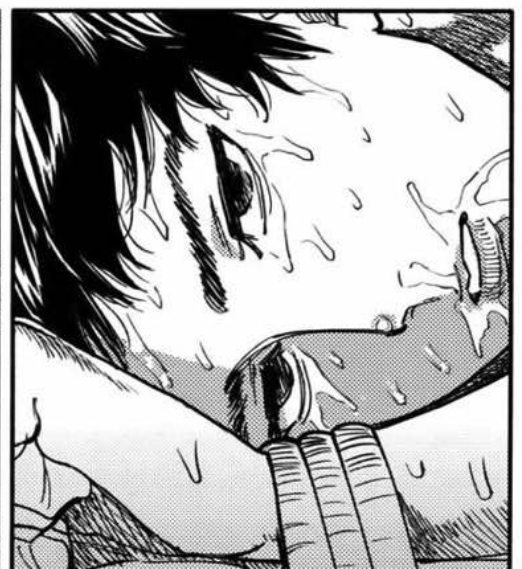
すべて
おまえの
思い通りだ



やっぱおまえ
口わりいな



ざまーみる





女のように見え
まじくは男で

子供のようで
老人のよう
でもあり

幼稚なのか
賢者なのか

一体何者なのか
どこまでも
わからない……



ミズキと
呼ばれて
いたな？

おまえ
名は



乱暴に蹂躪
されたかったのは
おまえの願望だ



大丈夫だ

もう乱暴には
しねえよ



そして
ツアリック教は
より困難な道を
選べという教えだ



おまえの言う教えも
この宗教に含まれる

この辺りの
宗教なら
ツアリック教
だろう

「礼を重んじ
疎かにするな」



身を犯される
苦痛に
耐えきること

昂ぶった俺に
獣のごとく
蹂躪され

おまえの
望みは



付き合っ
てもら
うぜ

ここからは
今度こそ
俺に



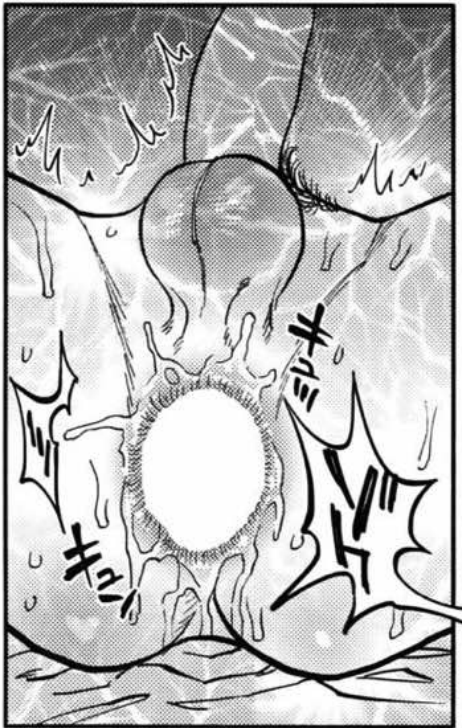
おまえ
いじわるな
やつだ

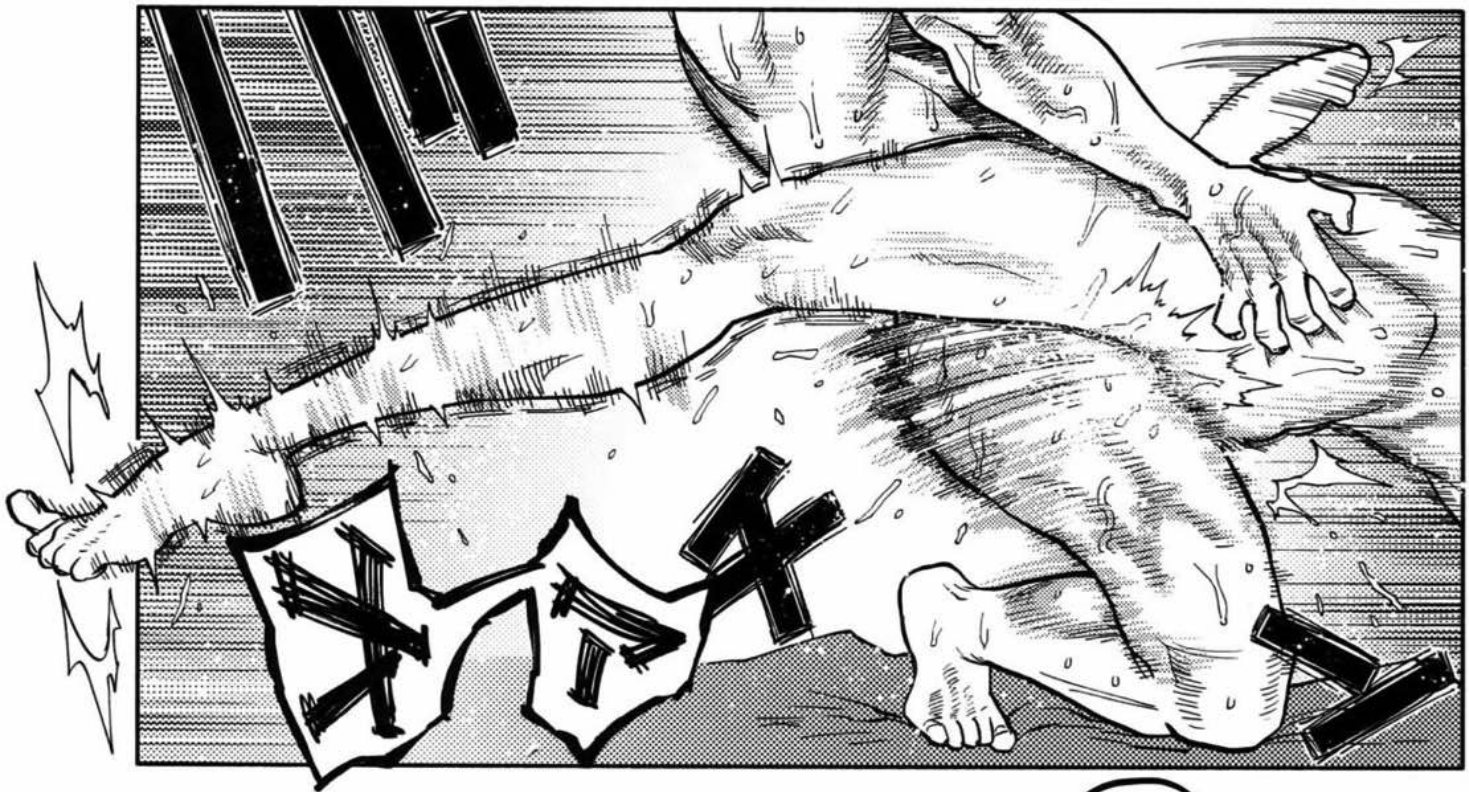
…すべて
わかっていたのか



わかっていて
宗教のために
ノツてやった
良い奴の
間違いだろ









本来強奪は御法度なんだ

俺たち桜木の軍はな

ミズキ



攻め入った領地で獲るのは城のみ

征服しても城下の店や家から強奪をするのは軍の規律違反...

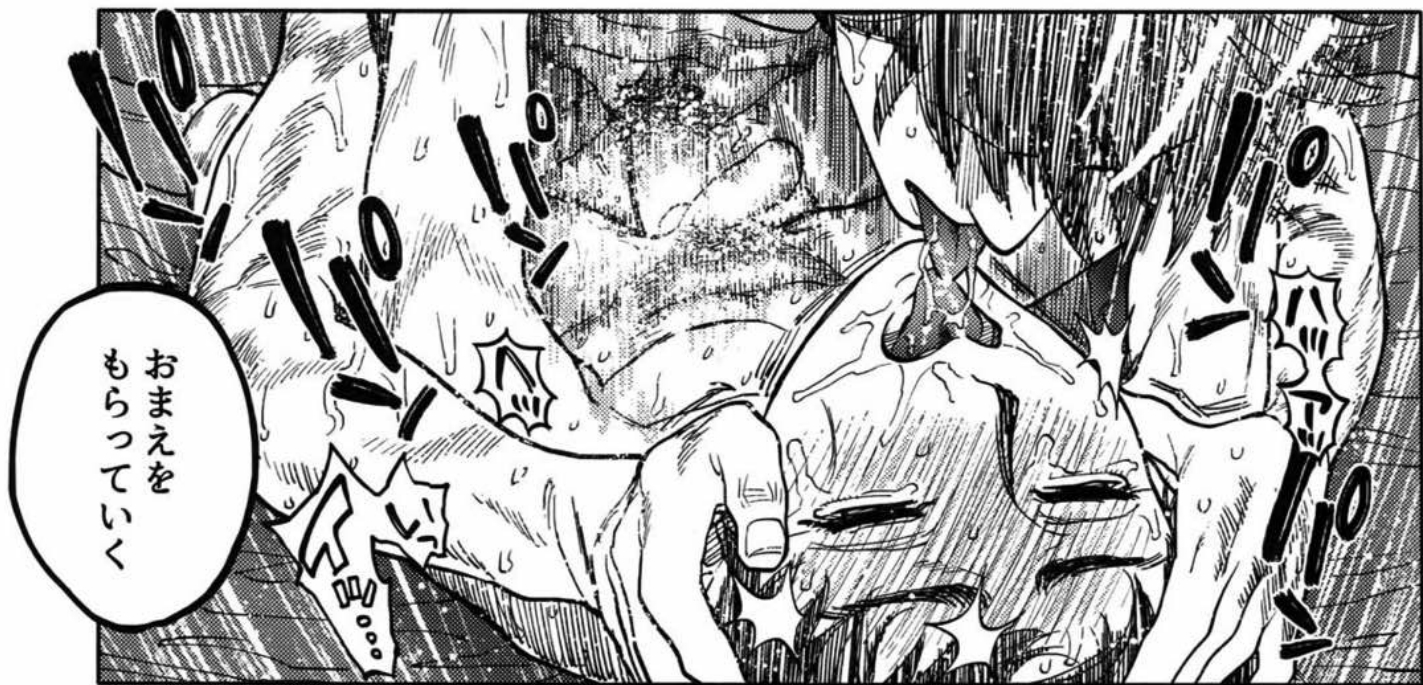


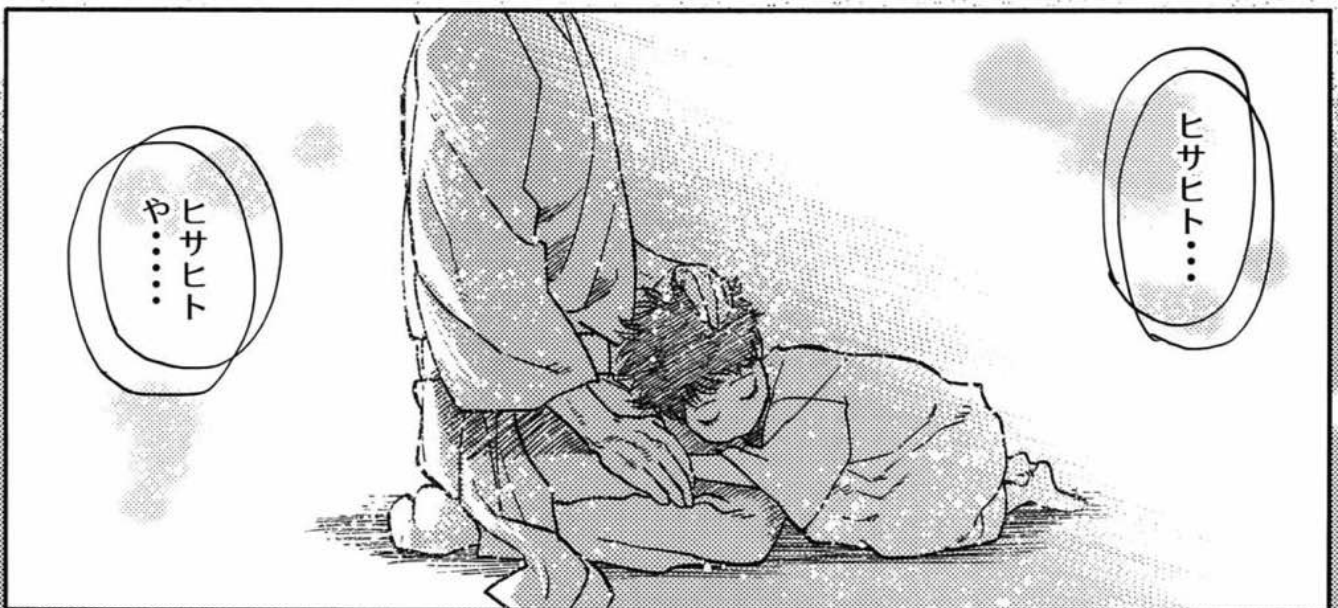
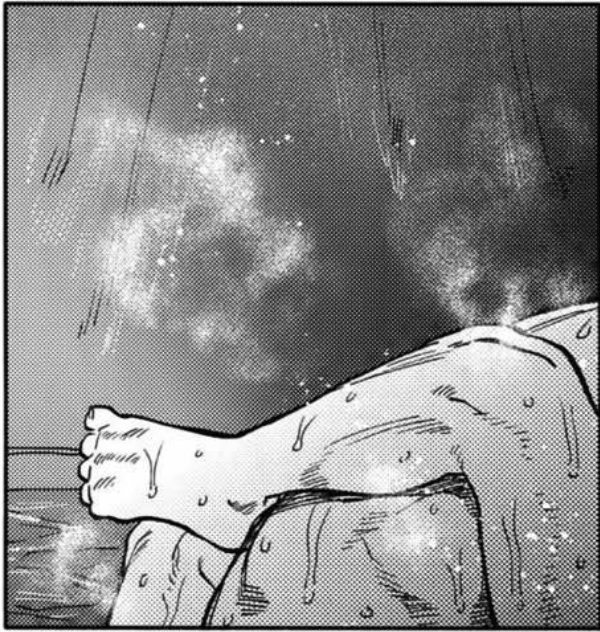
ミズキ おまえが

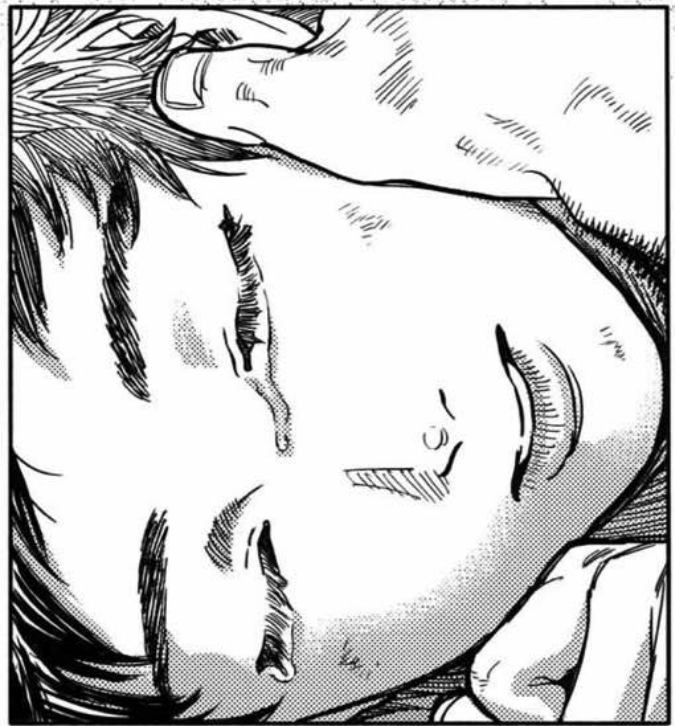
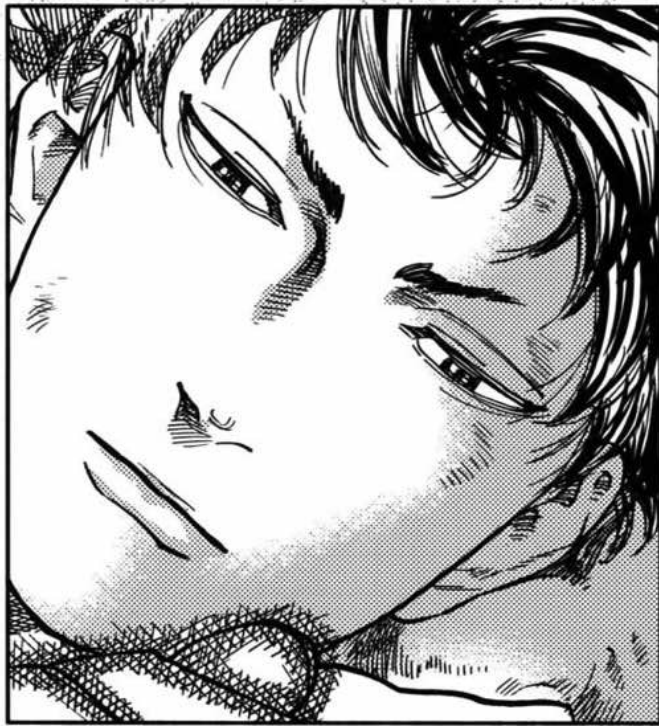
最初で最後



だからこれは最初で最後だ











導きの者は
昔からずっと
城下の民人の傍で
暮らしてきた

……

予知があれば
城から使者が
聞きにくる
城へ行くのは
式典の時くらい



その二日後に
国王が来て



12歳の時
爺さんが死んだ



爺さんの
写真ひとつすら
持っていくことが
できなかった



そのまま俺を
馬車に乗せ
城へと連れていった



国王の思考
そのすべてが
俺の中へ流れてきた



国王に肩を
抱かれた瞬間



国王は
あるう「と」か

実の息子を
欲望の対象として
見ていた



国王には一人の
溺愛する
息子がいた



実の父親に
襲われ

憎しみと悲しみに
打ちのめされた
幼い息子は



息子が12になった時
国王は耐えきれず
息子の寝床へ忍び込んだ



国王は10日の晩
泣き続けた

息子よどうか
戻ってきてくれ
2度とおまえには
触れぬと誓うから



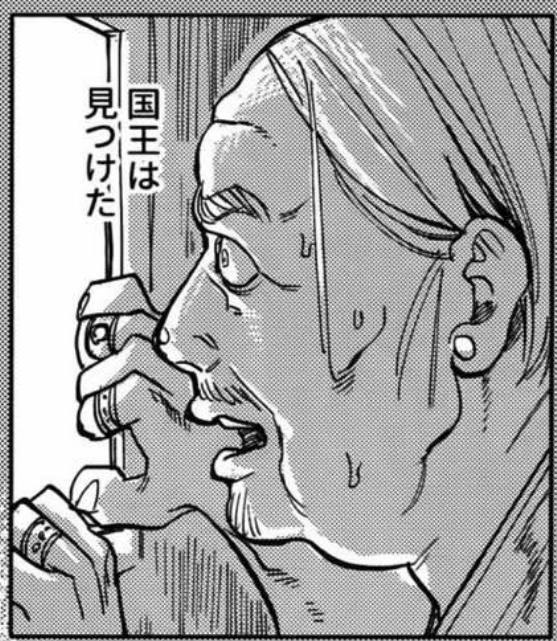
城の踊り場で
階段から身を投げて
死んだ



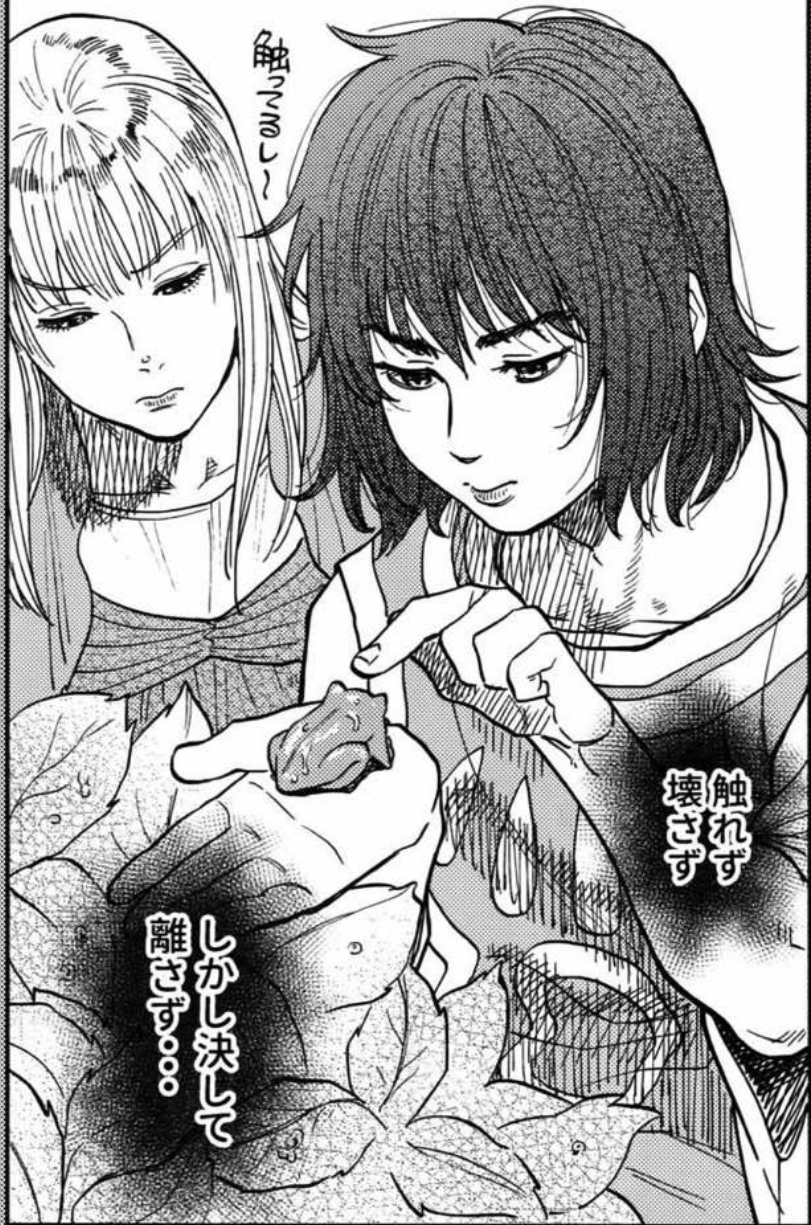
死なせた息子に
よく似た子供を……



息子の件から
逃げるように
城下へ来ていた時



国王は
見つけた



あんなに

触れず
壊さず

しかし決して
離さず……

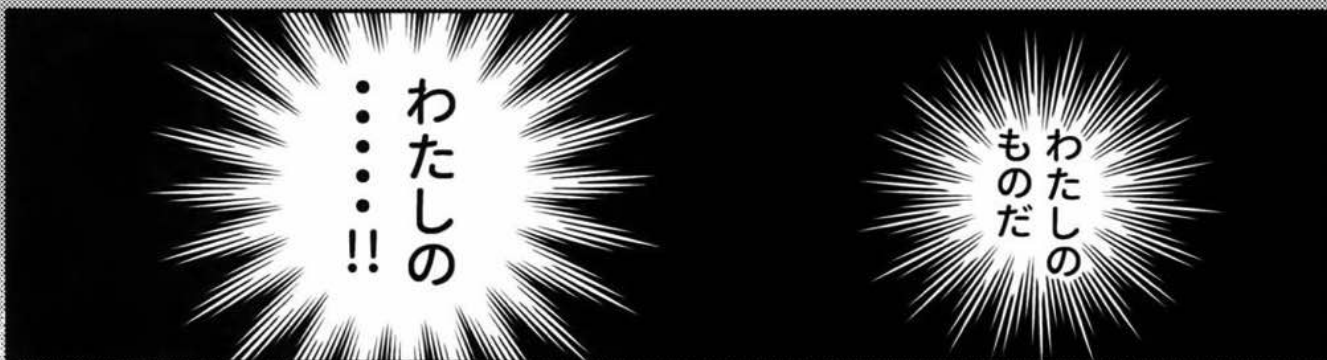


息子のようには
死なせはしない



うわっ
とんだ

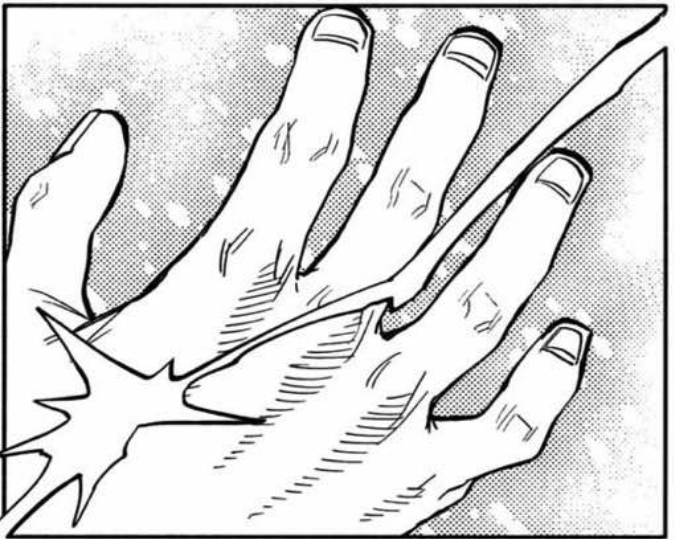
眺めて
愛でよう



わたしの
……!!

わたしの
ものだ







あの
黄金の王国

あれは
もしかすると
……



ミズキ



12歳……







そうすりや嫌でも
帰ってくることになる

この辺を治めるまで
ゴタゴタはするが...
それでも毎年 命日には
必ず墓参りできるぜ



おれのことを
好きなのか？



そうだよ

惚れた奴に
ついてきて
欲しいのさ



えええ
今気づいた
のおお？

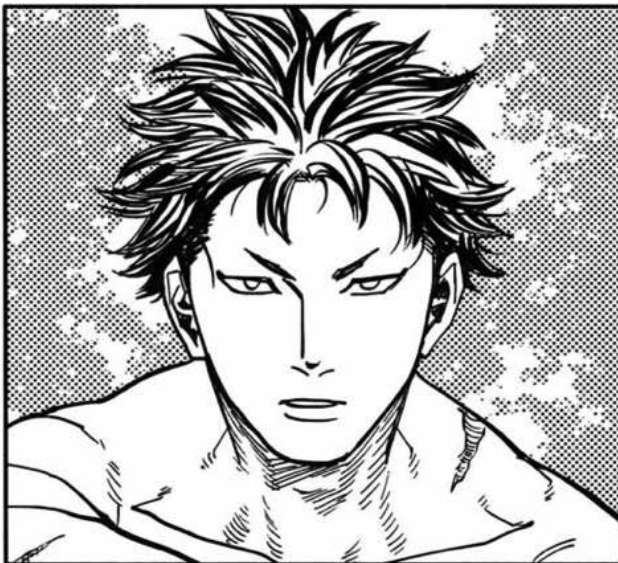
なんか
そんな感じの
雰囲気出してた
つもりなのに



もう
導きの能力は
使いたくなきゃ
使わなくても
い……



それにな
ミズキ
俺と一緒に
来るならば

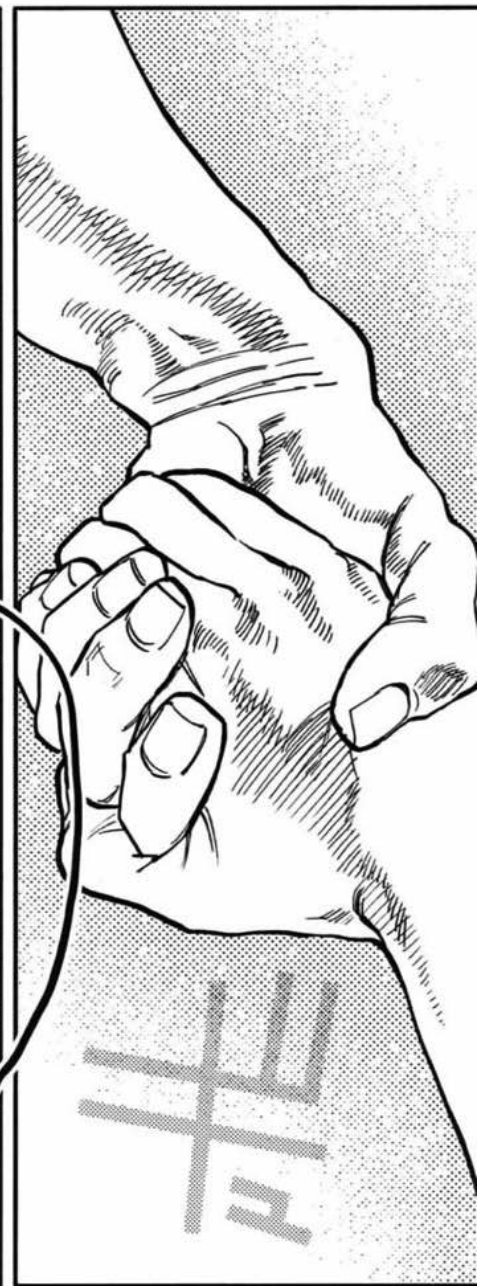


え!
!?



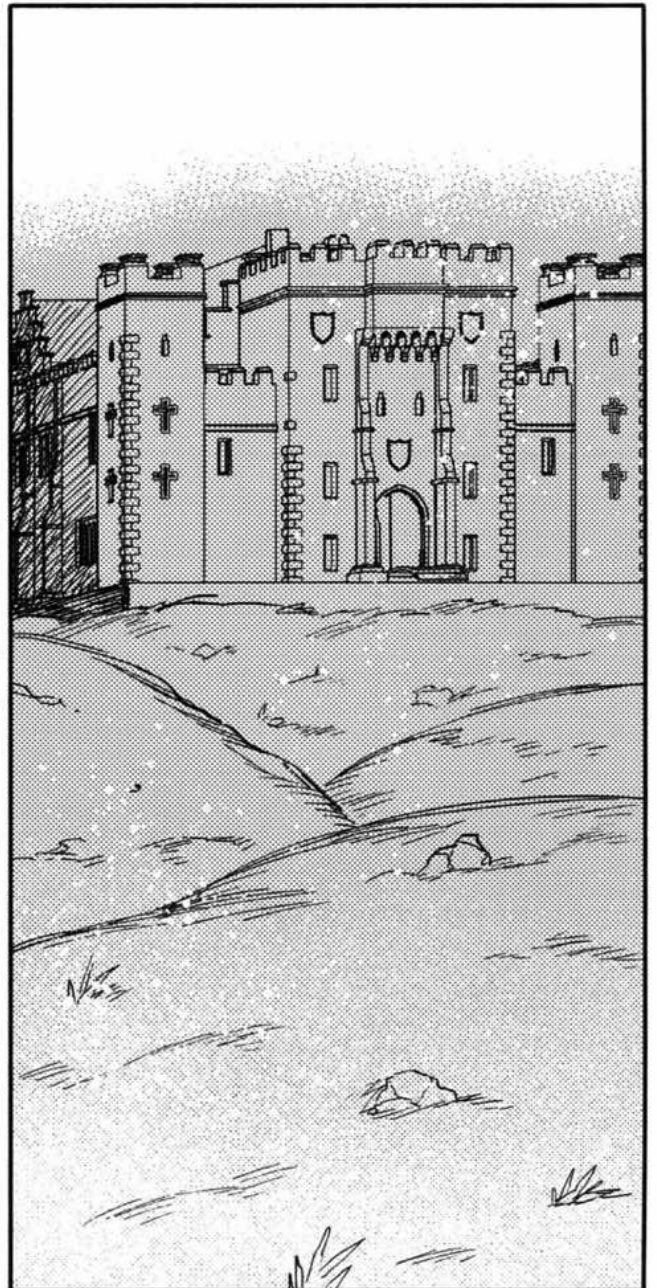
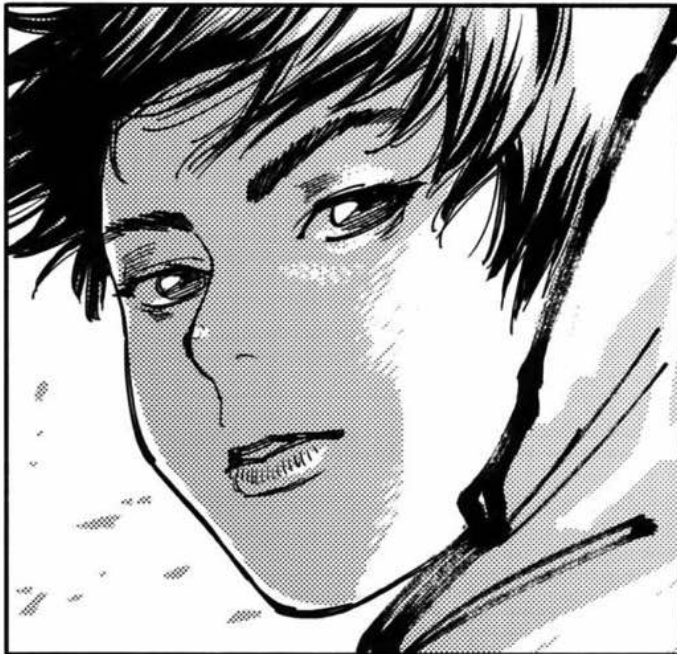
なら
おまえとは
行かない

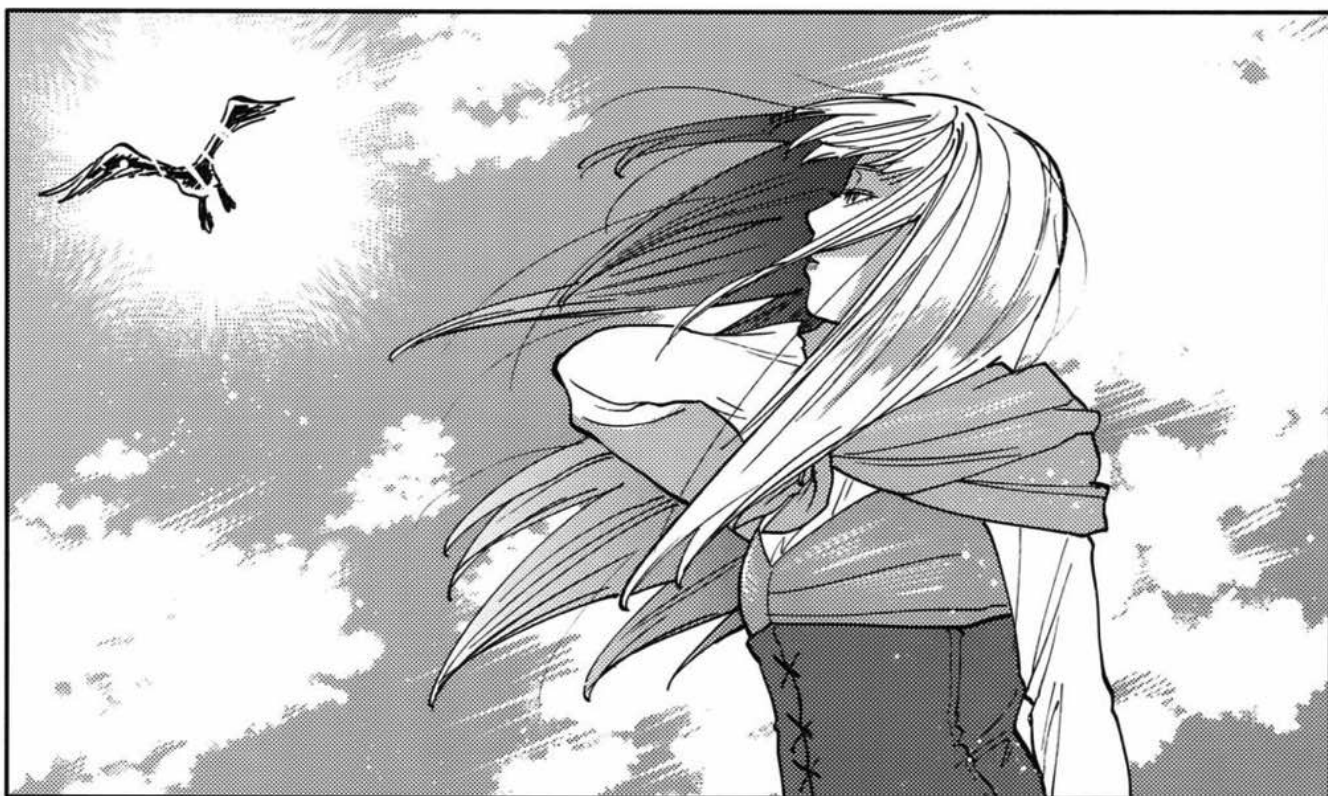
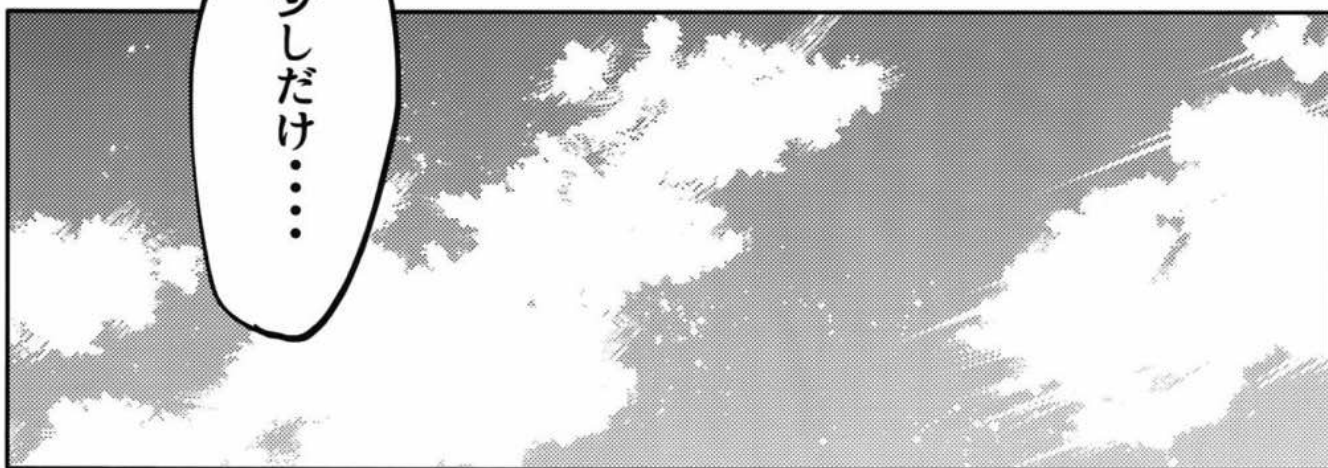
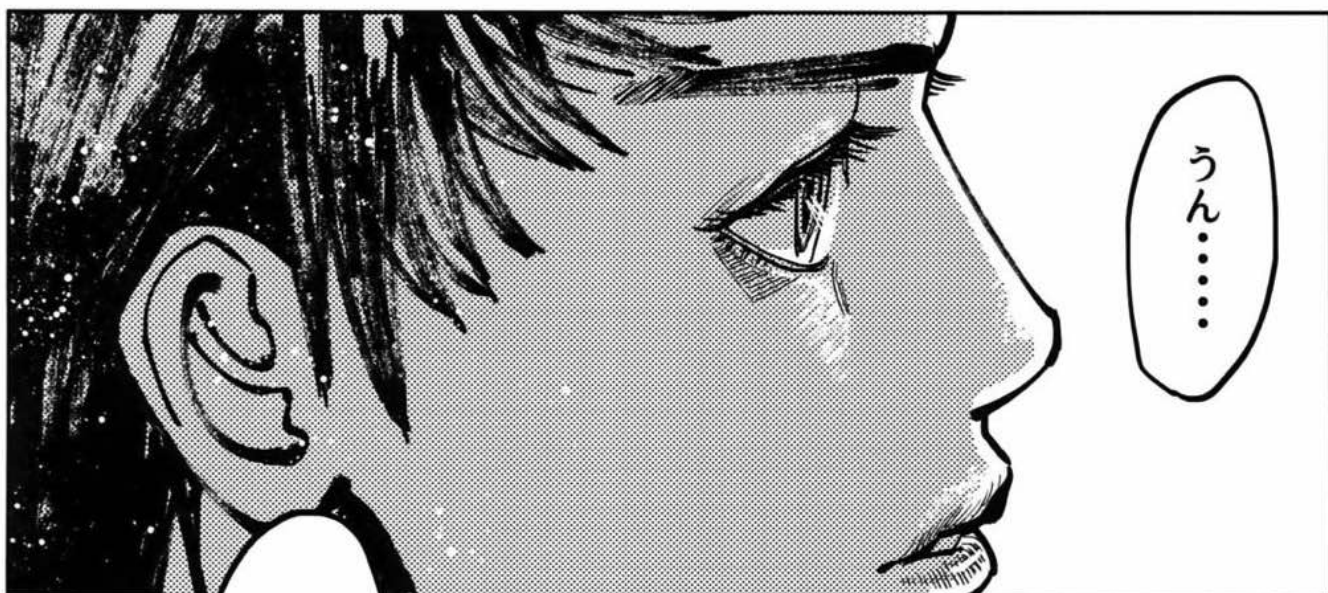










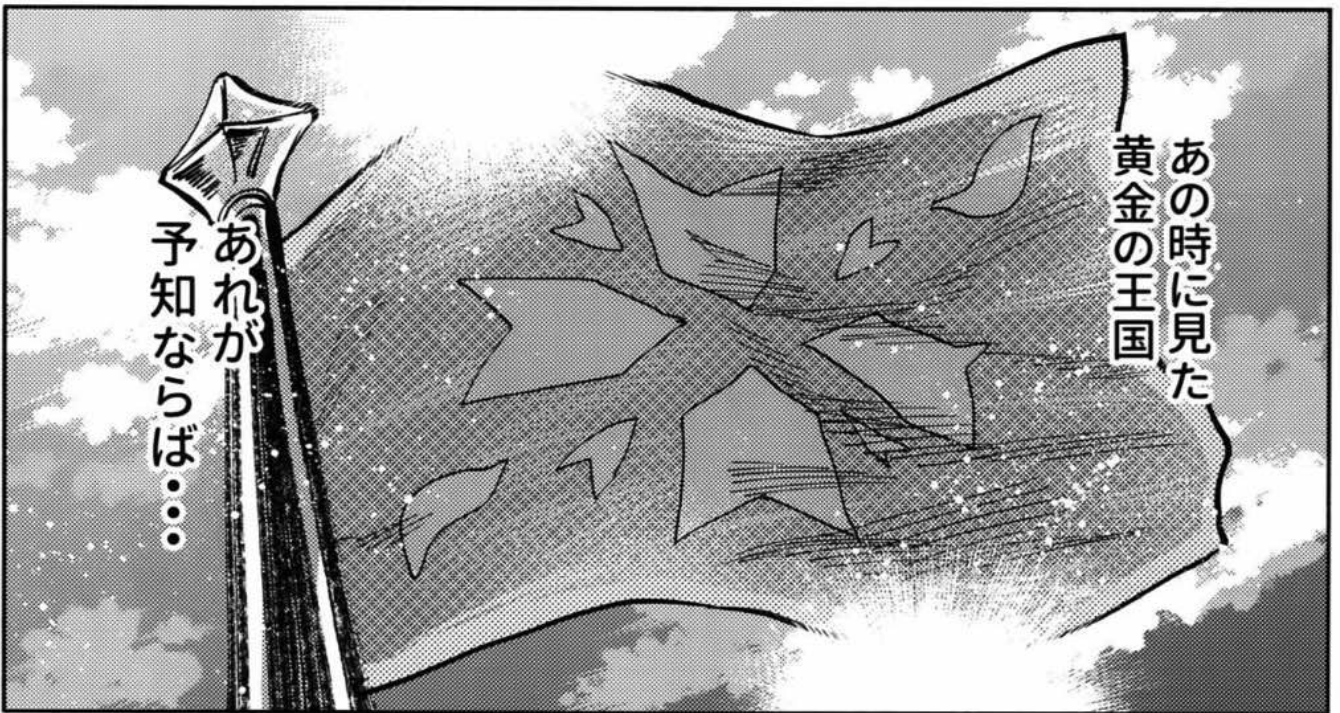




けれどきつと
この男ならば
やり遂げるはず



これから先
この軍が導かれる先は
困難の道となるだろう



あの時に見た
黄金の王国

あれが
予知ならば……





うわーっミズキ
おめー何してんだ

なにも
してない

しただろが
なんか
しただろが

うわああ

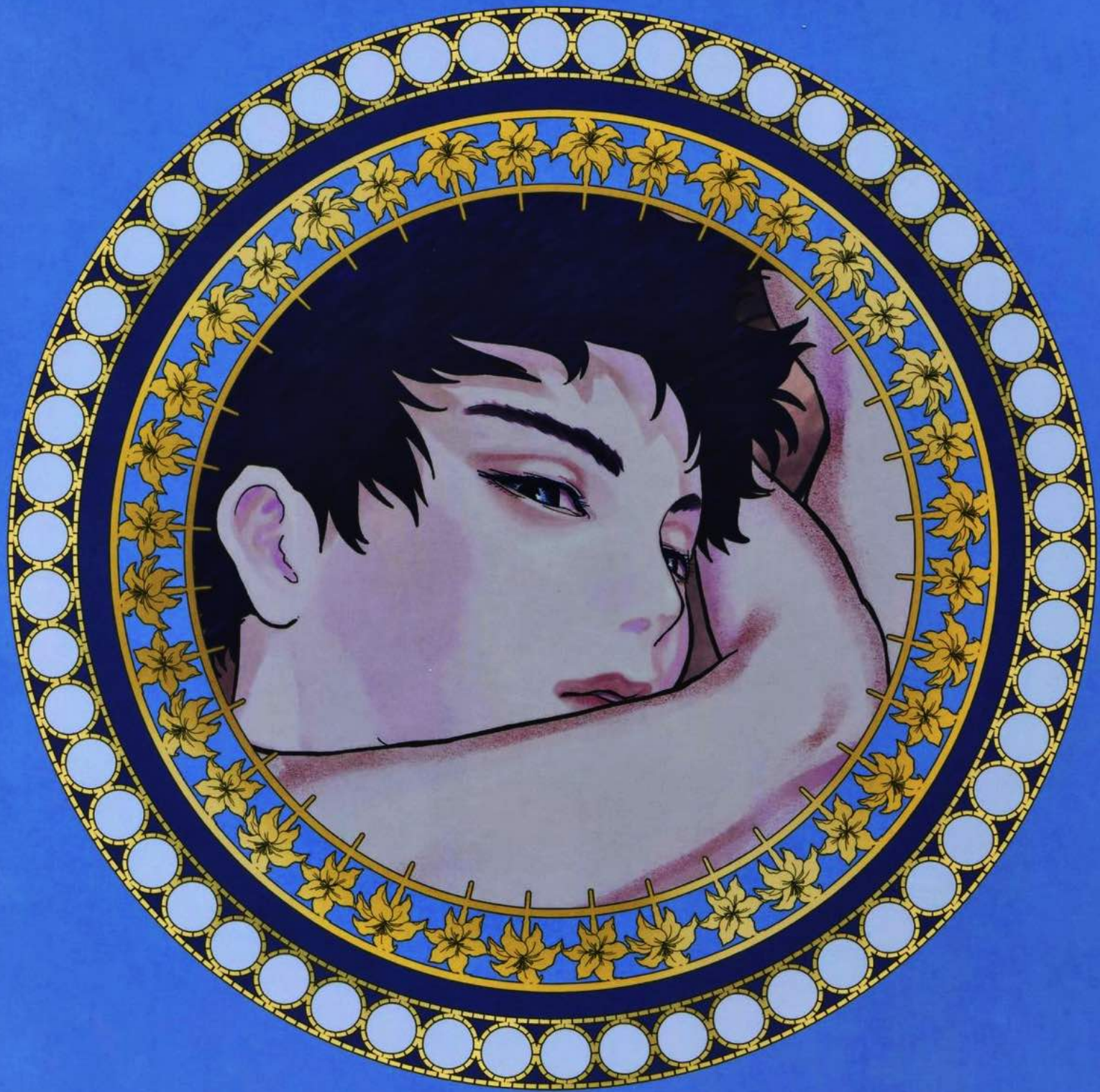
ノ ル ン

原稿期間が
3か月ほどありましたので
所々「ココとココ絵柄違くない?」
のようなことが起こっており
すみません。
好きなものを
結構たくさん描いたので
楽しかったです!

「ノルン」
2017.08.20発行
0-PARTS/西田
印刷:あかつき印刷

pixiv.me/mkhkn
Twitter: @YES24D
mendo10@live.jp

この本は個人的に作られた
非公式ファンブックです。
原作者様・出版社様とは
一切関係ありません。
無断転載・転売は禁止です。
ネットオークション、フリマアプリでの
転売はご遠慮ください。
この本は18禁です。
18歳以下の目に触れないよう
管理をお願いいたします。



2017.08.20 PRESENTED BY O-PARTS